

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学の設置									
フリガナ設置者	がっこうがくせん べつがくけん 学校法人 北杜学園									
フリガナ大学の名称	せんだいほくがくいんがく 仙台青葉学院大学									
大学本部の位置	宮城県仙台市若林区五橋三丁目5番75号									
大学の目的	仙台青葉学院大学は、学校教育法及び建学の精神に基づき、豊かな人間性を備え、深い専門性と実践力を身につけ、地域社会に貢献する人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	看護学部：人間愛を根底とする豊かな人間性と生命の尊厳に基づく高い倫理観を備え、深い専門的な知識、技術、分析力、判断力からなる看護実践能力を身につけ、生涯にわたり学び続けながら地域の保健医療福祉の向上に貢献できる看護職者を養成する。 リハビリテーション学部：人間愛を根底とする豊かな人間性と生命の尊厳に基づく高い倫理観を備え、リハビリテーション専門職としての深い専門的な知識、技術、分析力、判断力からなる実践能力を身につけ、生涯にわたり学び続けながら地域の保健医療福祉の向上に貢献できる理学療法士及び作業療法士を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学部 看護学科	年	人	年次人	人	学士（看護学）	令和6年4月 第1年次	宮城県仙台市若林区 五橋三丁目5番75号		
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	4	90	—	360	—	—	—		
	理学療法専攻 作業療法専攻	4	70	—	280	学士（理学療法学）	令和6年4月 第1年次	宮城県仙台市太白区 長町四丁目3番55号		
	計	4	30	—	120	学士（作業療法学）	—	—		
		計	190	—	760	—	—			
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		仙台青葉学院短期大学 看護学科（廃止） (△ 90) リハビリテーション学科（廃止） (△110) ※令和6年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計				
	看護学部 看護学科		69科目	20科目	14科目	103科目	124単位			
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻		58科目	26科目	15科目	99科目	129単位			
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻		62科目	28科目	10科目	100科目	129単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
				人	人	人	人	人	人	人
	新設分	看護学部 看護学科		11 (10)	8 (8)	9 (5)	4 (0)	32 (23)	0 (0)	42 (28)
		リハビリテーション学部 リハビリテーション学科		10 (7)	1 (1)	6 (2)	6 (0)	23 (10)	1 (0)	47 (33)
		計		21 (17)	9 (9)	15 (7)	10 (0)	55 (33)	1 (0)	— (—)
既設分	該当なし		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
合計			21 (17)	9 (9)	15 (7)	10 (0)	55 (33)	1 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計		
	事 務 職 員		16 (16)	2 (2)	18 (18)		
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計		18 (18)	2 (2)	20 (20)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		
	校 舎 敷 地	1,789.98 m ²	13,407.83 m ²	3,954.27 m ²	19,152.08 m ²	五橋キャンパス(3,706.00 m ²)：仙台青葉学院短期大学(必要面積12,400m ²)と共用	
	運 動 場 用 地	0 m ²	3,495.59 m ²	0 m ²	3,495.59 m ²	体育館敷地(3,318.36 m ²)、課外活動施設敷地(6,383.47 m ²)、栗生運動場(621.59 m ²)、宮床運動場(2,874.00 m ²)：仙台青葉学院短期大学(必要面積12,400m ²)、	
	小 計	1,789.98 m ²	16,903.42 m ²	3,954.27 m ²	22,647.67 m ²	仙台医療福祉専門学校・仙台大原簿記情報公務員専門学校・仙台工科専門学校・仙台デザイン専門学校(面積基準なし)と共用	
	そ の 他	0 m ²	156.00 m ²	0 m ²	156.00 m ²		
	合 計	1,789.98 m ²	17,059.42 m ²	3,954.27 m ²	22,803.67 m ²		
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		
		9,718.21 m ² (9,718.21 m ²)	4,037.62 m ² (4,037.62 m ²)	16,052.67 m ² (16,052.67 m ²)	29,808.50 m ² (29,808.50 m ²)	仙台青葉学院短期大学(必要面積11,100m ²)と共用	
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
	17室	4室	18室	2室 (補助職員一人)	2室 (補助職員一人)	大学全体 ※語学学習施設は情報処理学習施設と兼用 (仙台青葉学院短期大学との共用として、演習室4室、情報処理学習室兼語学学習施設2室を含む。)	
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数			
		看護学部 看護学科		25 室			
		リハビリテーション学部 リハビリテーション学科		17 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点
	看護学部	11,828 [962] (11,828 [962])	108 [81] (108 [81])	81 [81] (81 [81])	385 (385)	2,795 (2,779)	12 (12)
	リハビリテーション学部	6,725 [53] (6,725 [53])	58 [38] (58 [38])	38 [38] (38 [38])	278 (278)	961 (961)	28 (28)
	計	18,553 [1,015] (18,553 [1,015])	166 [119] (166 [119])	119 [119] (119 [119])	663 (663)	3,756 (3,740)	40 (40)
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		
		408.01 m ²	117 席		28,430 冊		大学全体 仙台青葉学院短期大学と一部共用
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				
		1,542.13 m ²	該当なし				大学全体 仙台青葉学院短期大学、専門学校4校との共用

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全体 図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む データベースは仙台青葉学院短期大学と共用 上段から看護学部、リハビリテーション学部の順	
		教員1人当り研究費等		200千円	200千円	200千円	200千円	-千円	-千円		
		共同研究費等		5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	-千円	-千円		
		図書購入費	5,891千円	2,300千円	2,300千円	2,300千円	2,300千円	-千円	-千円		
	設備購入費	131,264千円	0千円	1,017千円	0千円	0千円	-千円	-千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,810千円	1,560千円	1,560千円	1,560千円	-千円	-千円					
	1,890千円	1,640千円	1,640千円	1,640千円	-千円	-千円					
学生納付金以外の維持方法の概要				雑収入等							
既設大学の状況	大学の名称		仙台青葉学院短期大学								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	※令和4年度入学定員増(15人) ※令和4年度入学定員減(△10人)
			年	人	年次人	人		倍			
	看護学科		3	90	-	270	短期大学士(看護学)	1.00	平成21年度	宮城県仙台市若林区五橋三丁目5番75号	
	ビジネスキャリア学科		2	155	-	295	短期大学士(ビジネスキャリア学)	1.04	平成21年度		
	こども学科		2	100	-	200	短期大学士(こども学)	1.03	平成25年度		
	リハビリテーション学科		3	110	-	350		0.76	平成25年度	宮城県仙台市太白区長町四丁目3番55号	
	理学療法学専攻		3	80	-	260	短期大学士(理学療法学)	0.80	平成25年度		
	作業療法学専攻		3	30	-	90	短期大学士(作業療法学)	0.63	平成25年度		
	歯科衛生学科		3	70	-	210	短期大学士(歯科衛生学)	0.98	平成26年度	宮城県仙台市青葉区中央四丁目5番3号	
	栄養学科		2	80	-	160	短期大学士(栄養学)	0.95	平成27年度		
観光ビジネス学科		2	80	-	160	短期大学士(観光ビジネス学)	0.63	平成28年度			
現代英語学科		2	40	-	80	短期大学士(英語)	0.60	平成31年度			
言語聴覚学科		3	40	-	80	短期大学士(言語聴覚学)	1.07	令和3年度			
附属施設の概要		該当なし									

教 育 課 程 等 の 概 要																
(看護学部看護学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教 養 科 目	言語・情報系	日本語表現法	1前	1				○							兼1	
		英語Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		英語Ⅱ	1後	1				○							兼1	
		英語Ⅲ	4通		1			○							兼1	
		情報処理Ⅰ	1前	1				○							兼1	
		情報処理Ⅱ	1後	1				○							兼1	
		ICT活用技術	2前		1			○							兼1	
	小計(7科目)		—	5	2	0		—	0	0	0	0	0	0	兼7	—
	人文科学系	哲学	3前	1				○								兼1
		生命倫理学	1前	1				○								兼1
		心理学	1後	1				○			1					
		教育心理学	3前		1			○			1					
		宗教と民族	1前		1			○								兼1
	人間関係論	1前		1			○			1						
	小計(6科目)		—	3	3	0		—	1	0	0	0	0	0	兼3	—
	社会科学系	法学入門	2前	1				○								兼1
		日本国憲法	4後		2			○								兼1
		経済と政策	2後	1				○								兼1
		教育学概論	3後		1			○								兼1
		社会学	1前		1			○								兼1
	社会保障論	1後	1				○								兼1	
	小計(6科目)		—	3	4	0		—	0	0	0	0	0	0	兼6	—
	自然科学系	物理学	1前	1				○								兼1
		生物学	1前	1				○								兼1
		自然環境と災害	2後	1				○								兼1
統計学入門		2前	1				○								兼1	
健康スポーツⅠ		2前		1			○								兼1	
健康スポーツⅡ	2後		1							○				兼1		
小計(6科目)		—	4	2	0		—	0	0	0	0	0	0	兼5	—	
小計(25科目)		—	15	11	0		—	1	0	0	0	0	0	兼21	—	
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	1前	2				○							兼2	オムニバス
		人体構造と機能Ⅱ	1前	2				○			1					
		人体構造と機能Ⅲ	1後	2				○								兼1
		生化学	1前	1				○			1					
		微生物学	1前	1				○			1					
		栄養学	1後	1				○			1					兼1
	小計(6科目)		—	9	0	0		—	2	0	0	0	0	0	兼4	—
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1後	1				○								兼1
		病態治療学Ⅰ	1後	2				○			1					兼1
		病態治療学Ⅱ	1後	2				○								
		病態治療学Ⅲ	1後	2				○								兼1
		病態治療学Ⅳ	2前	2				○								兼2
	看護薬理学	1後	2				○								兼1	
	小計(6科目)		—	11	0	0		—	1	0	0	0	0	0	兼6	—
	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	2前	1				○								兼1
		疫学	2前		1			○								兼1
		保健情報論	2後		2			○			1					兼1
保健医療福祉行政論		2後		2			○			1					兼1	オムニバス
チームアプローチ入門		2後		1				○		1					兼2	オムニバス・共同(一部)
小計(5科目)		—	4	3	0		—	3	0	0	0	0	0	兼5	—	
小計(17科目)		—	24	3	0		—	4	0	0	0	0	0	兼14	—	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学部看護学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	基礎看護学	看護学概論	1前	2			○			1					
		看護倫理	1後	1			○			1					
		看護過程論	1後	2			○			1	3	2			オムニバス・共同（一部）
		基礎看護技術Ⅰ	1前	1			○			1	3	2			オムニバス・共同（一部）
		基礎看護技術Ⅱ	1前	2				○			3	2			オムニバス・共同（一部）
		基礎看護技術Ⅲ	1後	1				○			3	2			オムニバス・共同（一部）
		基礎看護技術Ⅳ	1後	2				○			3	2			オムニバス・共同（一部）
		小計（7科目）	—	11	0	0		—		1	0	3	2	0	0
	地域・在宅 看護学	地域・在宅看護学概論Ⅰ	2前	1			○			1					
		地域・在宅看護学概論Ⅱ	2前	1			○			1					オムニバス
		地域・在宅看護学援助論	3通	2			○			1	1				オムニバス・共同（一部）
		地域・在宅看護学援助方法	3後	1				○		1	1				オムニバス・共同（一部）
		地域包括ケア論	3後	1			○				1	1	1		オムニバス・共同（一部）
	小計（5科目）	—	6	0	0		—		2	1	1	1	0	0	—
	成人看護学	成人看護学概論	1後	1			○			1					
		成人看護学援助論	2前	2			○			1					
		成人看護学援助方法	2後	2				○			2	3			オムニバス・共同（一部）
		小計（3科目）	—	5	0	0		—		1	2	3	0	0	0
	老年看護学	老年看護学概論	2前	1			○			1					
		老年看護学援助論	2前	2			○			1	1				オムニバス
		老年看護学援助方法	2後	1				○		1	2				オムニバス・共同（一部）
		小計（3科目）	—	4	0	0		—		1	2	0	0	0	0
	小児看護学	小児看護学概論	2前	1			○			1					
		小児看護学援助論	2前	2			○				1	1			兼1
		小児看護学援助方法	2後	1				○		1	1	1			オムニバス・共同（一部）
		小計（3科目）	—	4	0	0		—		1	1	1	0	0	兼1
	母性看護学	母性看護学概論	2前	1			○			1					
		母性看護学援助論	2前	2			○			1	1	1			オムニバス
母性看護学援助方法		2後	1				○		1	1	1			オムニバス・共同（一部）	
小計（3科目）		—	4	0	0		—		1	1	1	0	0	—	
精神看護学	精神看護学概論	2前	1			○								兼1	
	精神看護学援助論	2前	2			○				1		1		兼1	
	精神看護学援助方法	2後	1				○			1		1		オムニバス・共同（一部）	
	小計（3科目）	—	4	0	0		—		0	1	0	1	0	兼2	—
看護の基盤と応用	看護過程展開方法	2前	1				○		1	3	4			オムニバス・共同（一部）	
	家族支援論	2前	1				○							兼1	
	救急救命学	3後		2			○							兼1	
	クリティカルケア看護学	4前		1			○		1						
	周術期看護論	2前	2				○		2	3		1		オムニバス	
	リハビリテーション論	4前		2			○							兼1	
	緩和ケア論	2前	1				○		1						
	小計（7科目）	—	5	5	0		—		4	4	4	1	0	兼3	—
看護の統合と実践	医療安全管理論	4前	1			○			1						
	災害看護論	3後	2			○			1	1	2	2		オムニバス・共同（一部）	
	看護管理論	4前	1			○				1					
	国際看護論	4前		1		○								兼1	
	スタートアップセミナー	1通	1				○		1	1	3	2		オムニバス・共同（一部）	
	キャリアデザインセミナー	2後	1			○			3	1				オムニバス	
	看護研究Ⅰ	3後	1			○			1						
	看護研究Ⅱ	4通	1				○		9	2				共同	
	看護学総合講義	4後	2			○				6	2			オムニバス	
	小計（9科目）	—	10	1	0		—		9	8	6	3	0	兼1	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
(看護学部看護学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門 科目	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○	1	3	8	2		兼2	共同
		基礎看護学実習Ⅱ	1後	2					○	2	3	6	2		兼2	共同
		地域・在宅看護学実習Ⅰ	2通	1					○	2	1	1	1			共同
		地域・在宅看護学実習Ⅱ	4前	1					○	1	1	1	1			共同
		領域横断看護実習	2後	3					○		7	5	1		兼1	共同
		成人看護学実習	3通	3					○	1	2	3			兼1	共同
		老年看護学実習	3通	3					○	1	2				兼1	共同
		小児看護学実習	3通	2					○	1	1	1				共同
		母性看護学実習	3通	2					○	1	1	1				共同
		精神看護学実習	3通	2					○		1		1			共同
		統合実習	4通	3					○		5	8	2		兼1	共同
小計（11科目）		—	23	0	0	—			7	8	9	4	0	兼2	—	
専門 科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後		1		○			1						
		公衆衛生看護学援助論Ⅰ	3前		2		○			1	1					オムニバス
		公衆衛生看護学援助論Ⅱ	3後		2		○			2	1		1			オムニバス・共同（一部）
		公衆衛生看護学援助方法	4前		1			○		2	1		1			オムニバス・共同
		公衆衛生看護学管理論	3後		2		○			2	1		1			オムニバス・共同（一部）
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	3通		1				○	1	1		1			共同
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後		3				○	1	1		1			共同
小計（7科目）		—	0	12	0	—			2	1	0	1	0	0	—	
小計（61科目）		—	76	18	0	—			9	8	9	4	0	兼9	—	
合計（103科目）		—	115	32	0	—			11	8	9	4	0	兼42	—	
学位又は称号		学士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業要件は124単位とする。 必修科目115単位、教養科目の選択科目から5単位以上、専門基礎科目または専門科目の選択科目（疫学、保健情報論、救急救命学、クリティカルケア看護学、リハビリテーション論、国際看護論、公衆衛生看護学概論）から4単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：50単位（年間）） 【保健師国家試験受験資格取得要件】 上記の卒業要件に加えて、専門基礎科目の選択科目から疫学、保健情報論、専門科目の公衆衛生看護学（7科目12単位）を含む135単位以上修得すること。 【養護教諭二種免許状申請要件】 上記の卒業要件及び【保健師国家試験受験資格取得要件】に加えて、教養科目の選択科目から日本国憲法、健康スポーツⅠ、健康スポーツⅡを修得し、135単位以上修得すること。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	日本語表現法	1前	1				○								兼1	
	英語Ⅰ	1前	1				○								兼1	
	英語Ⅱ	1後	1					○							兼1	
	英語Ⅲ	4通	1					○							兼1	
	情報処理Ⅰ	1前	1					○							兼1	
	情報処理Ⅱ	1後	1					○							兼1	
	ICT活用技術	2前	1					○							兼1	
	小計(7科目)	-	5	2	0		-		0	0	0	0	0	0	兼7	-
	哲学	1前	1				○								兼1	
	生命倫理学	3前	1				○								兼1	
	心理学	1後	1				○								兼1	
	教育心理学	2前	1				○								兼1	
	宗教と民族	1後	1		1		○								兼1	
	人間関係論	1前	1				○								兼1	
	小計(6科目)	-	5	1	0		-		0	0	0	0	0	0	兼4	-
	法学入門	1後	1				○								兼1	
	日本国憲法	1後	1		1		○								兼1	
	経済と政策	1後	1				○								兼1	
	教育学概論	2後	2				○								兼1	
	社会学	1後	1		1		○								兼1	
	社会保障論	1後	1		1		○								兼1	
	小計(6科目)	-	4	3	0		-		0	0	0	0	0	0	兼6	-
	物理学	1前	1				○								兼1	
	生物学	1前	1				○								兼1	
	自然環境と災害	2後	1				○								兼1	
統計学入門	2前	1				○								兼1		
健康スポーツⅠ	1前	1		1		○								兼1		
健康スポーツⅡ	2後	1		1						○				兼1		
小計(6科目)	-	4	2	0		-		0	0	0	0	0	0	兼5	-	
小計(25科目)	-	18	8	0		-		0	0	0	0	0	0	兼22	-	
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1後	2			○				1				兼1		
	解剖学Ⅱ	1後	2			○								兼1		
	解剖学演習	1前	1				○			1	1	1			オムニバス・共同	
	解剖学実習	1通	1						1	1		1			オムニバス・共同	
	生理学Ⅰ	1後	2			○			1							
	生理学Ⅱ	2後	2			○			1							
	生理学実習	2通	1						1		2	1			共同	
	運動学総論	1前	1			○			1							
	運動学演習Ⅰ	1後	1				○		1		1				共同	
	運動学演習Ⅱ	1後	1				○		1		2				オムニバス・共同	
	運動学実習	2前	1						1			1	1		共同	
	機能解剖学実習	2後	1						1			1			共同	
	臨床運動学	2後	2			○			2						オムニバス	
	人間発達学	1後	1			○			1							
	小計(14科目)	-	19	0	0		-		5	1	3	3	1	兼1	-	
	薬理学	2前	1			○									兼1	
	病理学	2後	1			○									兼1	
	小児科学	2後	1			○									兼1	
	老年学	3前	1			○									兼1	
	内科学	2前	2			○									兼1	
	神経学	2後	2			○			1							
	整形外科学	2前	2			○			1							
	精神医学	2前	2			○									兼1	
	臨床心理学	2後	1			○									兼1	
	栄養学	1後	1			○									兼2	
救急救命学	1前	1			○									兼1		
公衆衛生学	3前	1			○									兼1		
言語聴覚療法概論	2後	1			○									兼1		
臨床検査・画像診断学	3前	1			○									兼1		
小計(14科目)	-	18	0	0		-		2	0	0	0	0	兼13	-		
リハビリテーション概論	1後	2			○									兼1		
チームアプローチ入門	2後	1				○		2						兼1	オムニバス・共同(一部)	
保健医療福祉連携論	4通	1				○		1		3	3			兼3	オムニバス・共同(一部)	
小計(3科目)	-	4	0	0		-		2	0	3	3	0	兼4	-		
小計(31科目)	-	41	0	0		-		8	1	5	5	0	兼15	-		

教 育 課 程 等 の 概 要

（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎理学療法学	理学療法概論	1前	2			○			3							オムニバス
	トランスレーショナルセミナーⅠ	1通	1				○		4	1	4	4				共同
	トランスレーショナルセミナーⅡ	2通	1				○		4	1	4	4				共同
	トランスレーショナルセミナーⅢ	3通	1				○		4	1	4	4				共同
	トランスレーショナルセミナーⅣ	4通	1	1			○		4	1	4	4				共同
	理学療法研究法Ⅰ	4前	1			○			1							
	理学療法研究法Ⅱ	4通	2				○		4							共同
小計（7科目）	-	-	6	3	0	-	-	-	5	1	4	4	0	0		-
理学療法管理学	理学療法管理学	4前	2			○			1							
	小計（1科目）	-	-	2	0	0	-	-	1	0	0	0	0	0		-
理学療法評価学	理学療法評価学	2前	1			○			1							
	基礎理学療法評価学実習	2後	1					○			3	1				オムニバス・共同
	運動器障害理学療法評価学実習	2前	1					○			2	1	1			オムニバス・共同（一部）
	神経障害理学療法評価学実習	3前	1					○			1	1				共同
	内部障害理学療法評価学演習	3後	1					○			1	1				共同
	理学療法評価学総合実習	3後	1					○			3	3	1			オムニバス・共同（一部）
小計（6科目）	-	-	6	0	0	-	-	-	1	1	4	3	1	0		-
理学療法治療学	運動器障害理学療法学	3前	2			○			1							
	運動器障害理学療法学演習	3後	2					○			2	1				オムニバス・共同
	神経障害理学療法学	3前	2			○			1	1						オムニバス
	神経障害理学療法学演習	3後	2					○		1	1	1	1			オムニバス・共同（一部）
	高次脳機能障害学	3後	1			○			1							
	内部障害理学療法学	3前	2			○			1		2				兼1	オムニバス
	内部障害理学療法学演習	3後	2					○		1	1	1			兼1	オムニバス・共同（一部）
	神経筋疾患理学療法学	3後	2			○			1	1						オムニバス
	小児理学療法学	3前	1			○									兼1	
	物理療法学	2前	2			○			2							オムニバス
	物理療法学演習	2後	1					○		2	2					オムニバス
	義肢装具学	3前	2			○			1							
	義肢装具学演習	3後	1					○		1						
	日常生活活動学	2前	2			○			1							
	日常生活活動学実習	2後	1					○		1	2	3				オムニバス・共同（一部）
	予防理学療法学	4前	2			○			1						兼3	オムニバス
	スポーツ理学療法	4通	2					○		1		1	1		兼1	オムニバス・共同（一部）
	疼痛理学療法	4後	1			○					1					
	先端理学療法	4後	1			○									兼1	
小計（19科目）	-	-	27	4	0	-	-	-	5	1	4	4	0	兼7		-
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	1通	1					○	4	1	4	4	1			共同
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	3通	4					○	4	1	4	4	1			共同
	臨床実習Ⅲ（総合実習）	4通	7					○	4	1	4	4	1			共同
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	4通	7					○	4	1	4	4	1			共同
	地域リハビリテーション実習	3通	1					○	4	1	4	4	1			共同
小計（5科目）	-	-	20	0	0	-	-	-	4	1	4	4	1	0		-
地域理学療法学	地域理学療法学	3前	1			○			1							
	地域理学療法学演習	3後	1					○	1			2				オムニバス・共同（一部）
	生活環境論	4前	1			○			1							
小計（3科目）	-	-	3	0	0	-	-	-	1	0	0	2	0	0		-
特別演習	理学療法学総合演習Ⅰ	3後	1					○	5	1						オムニバス
	理学療法学総合演習Ⅱ	4後	1					○	6	1						オムニバス
	小計（2科目）	-	-	2	0	0	-	-	6	1	0	0	0	0		-
小計（43科目）	-	-	66	7	0	-	-	-	6	1	4	4	1	兼7		-
合計（99科目）	-	-	125	15	0	-	-	-	8	1	5	6	1	兼43		-
学位又は称号	学士（理学療法学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業要件は129単位とする。 必修科目125単位、教養科目の選択科目から2単位以上、専門科目の選択科目から2単位以上を修得し、129単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：43単位（年間））							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目	日本語表現法	1前	1				○								兼1		
	英語Ⅰ	1前	1				○								兼1		
	英語Ⅱ	1後	1					○							兼1		
	英語Ⅲ	4通		1				○							兼1		
	情報処理Ⅰ	1前	1					○							兼1		
	情報処理Ⅱ	1後	1					○							兼1		
	ICT活用技術	2前		1				○							兼1		
	小計(7科目)	-	-	5	2	0		-		0	0	0	0	0	0	兼7	-
	哲学	1前	1				○									兼1	
	生命倫理学	3前	1				○									兼1	
	心理学	1後	1				○									兼1	
	教育心理学	2前	1				○									兼1	
	宗教と民族	1後		1			○									兼1	
	人間関係論	1前	1				○									兼1	
	小計(6科目)	-	-	5	1	0		-		0	0	0	0	0	0	兼4	-
	法学入門	1後	1				○									兼1	
	日本国憲法	1後		1			○									兼1	
	経済と政策	1後	1				○									兼1	
	教育学概論	2後	2				○									兼1	
	社会学	1後		1			○									兼1	
	社会保障論	1後		1			○									兼1	
	小計(6科目)	-	-	4	3	0		-		0	0	0	0	0	0	兼6	-
	物理学	1前	1				○									兼1	
	生物学	1前	1				○									兼1	
	自然環境と災害	2後	1				○									兼1	
統計学入門	2前	1				○									兼1		
健康スポーツⅠ	1前		1			○									兼1		
健康スポーツⅡ	2後		1				○								兼1		
小計(6科目)	-	-	4	2	0		-		0	0	0	0	0	0	兼5	-	
小計(25科目)	-	-	18	8	0		-		0	0	0	0	0	0	兼22	-	
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1前	2			○				1					兼1		
	解剖学Ⅱ	1後	2			○											
	解剖学演習	1前	1				○			1	1	1				オムニバス・共同	
	解剖学実習	1通	1					○		1	1	1				オムニバス・共同	
	生理学Ⅰ	1後	2			○				1							
	生理学Ⅱ	2前	2			○				1							
	生理学実習	2通	1					○		1	2	1				共同	
	運動学総論	1前	1			○				1							
	運動学演習Ⅰ	1後	1				○			1	1					共同	
	運動学演習Ⅱ	1後	1				○			1	2					オムニバス・共同	
	運動学実習	2前	1					○		1		1	1			共同	
	機能解剖学実習	2後	1					○		1		1				共同	
	臨床運動学	2後	2				○			2						オムニバス	
	人間発達学	1後	1				○			1							
	小計(14科目)	-	-	19	0	0		-		5	1	3	3	1	1	兼1	-
	薬理学	2前	1				○									兼1	
	病理学	2後	1				○									兼1	
	小児科学	2後	1				○									兼1	
	老年学	3前	1				○									兼1	
	内科学	2前	2				○									兼1	
	神経学	2後	2				○			1							
	整形外科	2前	2				○			1							
	精神医学	2前	2				○									兼1	
	精神医学演習	2後	1					○								兼1	
	臨床心理学	2後	1				○									兼1	
栄養学	1後	1				○									兼2	オムニバス	
救急救命学	1前	1				○									兼1		
公衆衛生学	3前	1				○									兼1		
言語聴覚療法概論	2後	1				○									兼1		
臨床検査・画像診断学	3前	1				○									兼1		
小計(15科目)	-	-	19	0	0		-		2	0	0	0	0	0	兼13	-	
リハビリテーション概論	1後	2				○									兼1		
チームアプローチ入門	2後	1					○		2						兼3	オムニバス・共同(一部)	
保健医療福祉連携論	4通	1					○		1		3	3			兼3	オムニバス・共同(一部)	
小計(3科目)	-	-	4	0	0		-		2	0	3	3	0	0	兼4	-	
小計(32科目)	-	-	42	0	0		-		8	1	5	5	1	1	兼15	-	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎作業療法学	作業療法学概論	1前	1			○			1						兼1 オムニバス・共同（一部） 共同 共同 共同 共同 共同
	基礎作業学	1後	1			○			1						
	基礎作業学演習Ⅰ	3前	1				○		1	1	1				
	基礎作業学演習Ⅱ	4前		1			○								
	トランスレーショナルセミナーⅠ	1通	1				○		3		2	2			
	トランスレーショナルセミナーⅡ	2通	1				○		3		2	2			
	トランスレーショナルセミナーⅢ	3通	1				○		3		2	2			
	トランスレーショナルセミナーⅣ	4通		1			○		3		2	2			
	作業療法研究法Ⅰ	3後	1				○		1						
	作業療法研究法Ⅱ	4通		2			○		4						
小計（10科目）		-	7	4	0				4	0	2	2	0	兼1	-
作業療法管理学	作業療法管理学	4前	2			○			1						
	小計（1科目）		-	2	0	0			1	0	0	0	0	0	-
作業療法評価学	作業療法評価学	2前	1			○			1						オムニバス・共同 オムニバス・共同 オムニバス・共同（一部） 共同
	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	2前	1				○		2		1	1			
	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	2後	1				○		1		1	1			
	精神障害作業療法評価学演習	2前	1				○		1		1	1			
	高次脳機能障害作業療法評価学演習	2後	1				○		1		1				
小計（5科目）		-	5	0	0				3	0	2	2	0	0	-
作業療法治療学	作業療法理論	3前	2			○			1						兼1 オムニバス オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス 兼1 兼1 兼1
	身体障害作業療法学Ⅰ	3前	2			○			2						
	身体障害作業療法学Ⅱ	3後	2			○			2						
	身体障害作業療法学演習	3通	2				○		1	1	1				
	精神障害作業療法学	3前	2			○			1		1				
	精神障害作業療法学演習	3後	1				○		1		1	1			
	高齢期作業療法学	3前	1				○		1						
	高齢期作業療法学演習	3後	1				○		1		1	1			
	発達障害作業療法学	3前	1				○		1						
	高次脳機能障害作業療法学	3後	1				○		1						
	日常生活活動学	3前	2				○		1						
	義肢装具学	3前	2				○		2						
	福祉レクリエーション論	4前		1			○								
	先端作業療法	4後		1			○								
小計（14科目）		-	19	2	0				5	0	2	2	0	兼4	-
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	1通	2					○	3		2	2			共同 共同 共同 共同 共同
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	3通	5					○	3		2	2			
	臨床実習Ⅲ（地域実習）	3通	1					○	3		2	2			
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	4通	9					○	3		2	2			
	臨床実習Ⅴ（総合実習）	4通	9					○	3		2	2			
小計（5科目）		-	26	0	0				3	0	2	2	0	0	-
地域作業療法学	地域生活支援論	1後	1			○			1		1	1			オムニバス・共同（一部） オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）
	地域作業療法学	3前	1			○			1		1				
	職業リハビリテーション論Ⅰ	3後	1			○			1						
	職業リハビリテーション論Ⅱ	4後		1		○			1		1	2			
	生活環境論	2後	1			○			1						
	福祉住環境論	4前		1		○			1		1				
小計（6科目）		-	4	2	0				3	0	2	2	0	0	-
特別演習	作業療法学総合演習Ⅰ	3後	1				○		4	1					オムニバス オムニバス
	作業療法学総合演習Ⅱ	4後	1				○		4						
小計（2科目）		-	2	0	0				4	1	0	0	0	0	-
小計（43科目）		-	65	8	0				5	1	2	2	0	兼5	-
合計（100科目）			-	125	16	0			10	1	6	5	1	兼41	-
学位又は称号	学士（作業療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
卒業要件は129単位とする。 必修科目125単位、教養科目の選択科目から2単位以上、専門科目の選択科目から2単位以上を修得し、129単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：43単位（年間））						1学年の学期区分				2学期					
						1学期の授業期間				15週					
						1時限の授業時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。
		英語Ⅰ	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅰでは、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。
		英語Ⅱ	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅱでは、英語Ⅰで学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。
		英語Ⅲ	現代の日本において、様々な国籍の人が生活する中、医療現場においても英語を使う機会は格段に増え、また、将来研究を続けていく上では必要不可欠な言語である。 英語Ⅲでは、英語Ⅰ・英語Ⅱで学んだ内容を基に、臨床や研究に活かせる医療英語を学修する。さらに、専門分野における英語論文の構成や、論の進め方に触れ、国際的な視点から学術活動への興味関心を高めていく。
		情報処理Ⅰ	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理Ⅰでは、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活で必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。
		情報処理Ⅱ	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。
		ICT活用技術	情報通信技術（ICT）の発展により、将来、医療従事者となる学生にとって、ICTを活用する基礎的能力を身につけていることが重要となる。 ICT活用技術では、ICTの特徴的な内容について理解を深め、医療福祉分野においてもICTの進化に対応し、活用できる技術を、具体的な事例を通して学修する。さらに、ICTを活用したグループワーク等を行い、ICT活用技術の修得を目指す。
人文科学系	哲学	哲学とは、真理を探究し、物事の本質を追究する学問である。代表的な哲学者等の思想を学び、深く自身の考えを巡らせ、人間とは何かを思索する。哲学の歴史や流れを学びながら、人間は何のために生きるのか、幸福とは何か、自由とは何か、愛とは何か、正義とは何か等の普遍的な問いについて深く考える。個の内面を徹底的に洞察するという哲学的な思考法を学び、深く考えることの価値を知ること、自身の人生をより深みのあるものにしていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学系	生命倫理学	医療は生物、心理、社会的な包括的アプローチが求められる。医学の進歩発展過程や学際的に問われる倫理(生殖技術・移植医療・遺伝子技術)、医療現場で問われている倫理的問題(人工妊娠中絶・安楽死・尊厳死)等を具体的な課題を通して学ぶ。医療従事者として必要とされる、相手を尊重し敬意を持って接する姿勢や、人間の尊厳についての考えを深め、倫理的態度を身につけることを目指す。
		心理学	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情、動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。
		教育心理学	人間は、成人するまでに受ける教育から大きな影響を受ける。乳児期から青年期までの成長過程における心や知能の発達、人格形成等を、教育学的観点から考察する。 人間の発達に関する基礎的な知識を身につけ、記憶・動機づけ等の学習について学ぶ。また、個人の行動傾向を指す総合的な概念であるパーソナリティについても学修する。教育過程における様々な現象を心理学的に明らかなものとし、効果的な教育方法の検討をする。
		宗教と民族	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教)を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。
		人間関係論	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者(対象者)によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。
		社会科学系	法学入門
日本国憲法	日本国憲法の概要、基本理念・原理について学ぶ。国民の権利及び義務、幸福追求権、平和主義、生存権の内容に触れ、日常生活との憲法との関わりを学ぶ。また、身近で起こりえる問題について、日本国憲法を基に解釈し、自ら活用できることを目指す。医療従事者、教育者として必要な考え方も日本国憲法から学び、修得する。		
経済と政策	一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。		

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学系		
	教育学概論	教育に関する基本的な理念・思考、教育方法を学び、人の成長過程における教育の重要性を理解する。自身への教育として、成人学習理論、生涯学習等の基本的な知識を学修し、他者への教育として人材育成を軸に、教育計画（目標）の設定方法や教育活動（内容）を学修する。この科目は自身の教育経験も踏まえて、教育とは何かを改めて考える機会とする。	
	社会学	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。	
	社会保障論	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療を取り巻く環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。	
自然科学系	物理学	人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。	
	生物学	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。	
	自然環境と災害	自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起こし、災害となって新たな問題を引き起こす。 この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生のメカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。	
	統計学入門	統計学の入門として、情報化社会の中で公表されている数字・データを正しく読み解き、理解する基礎的知識を身につける。統計学を学ぶ上で必要な、分布、分散、標準偏差、確率等を利用して、身近な数字・データを基に統計の基礎を学ぶ。	
	健康スポーツ I	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツ I では、健康を維持するために必要な食生活と運動（スポーツ）の重要性を学ぶ。生活習慣病と運動・食生活の関係、疾病と健康状態、体力に応じた運動方法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学系	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動(スポーツ)を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツⅡでは、実技を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法を学ぶ。また、実際に体験することにより、運動(スポーツ)の意義・目的を理解し、教育者・指導者としての能力の向上を目指す。	
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ (概要) 人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅰでは、人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。 (オムニバス方式/全15回) (33 佐野徳久/5回) 人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態について講義する。 (18 大和田宏美/10回) 人体の筋組織について講義する。	オムニバス方式
		人体構造と機能Ⅱ 人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅱでは、循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、生殖器の構造と機能など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。	
		人体構造と機能Ⅲ 人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅲでは、中枢神経系、末梢神経系、感覚器系、内分泌系、血液、免疫系の構造と機能など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。	
		生化学 生化学とは、生命の現象において、科学的に理解・解明をしようとする学問である。本科目では、生体内でのたんぱく質、アミノ酸、酵素、糖質、脂質、核酸等の性質や働き、代謝等を学ぶ。食事で得る栄養が、体内で消化されてから代謝されていくプロセスを含め、生化学的知識を学修する。	
		微生物学 微生物学の基本知識を学ぶと共に、多くの病原微生物が宿主・環境とどのように関わり合いながら人に感染症を引き起こすのか、その過程を学修する。病原微生物の種類と特徴、感染に対する生体防御機構、微生物感染のしくみなどについて学ぶ。また、看護職として感染予防の観点からも、正しい知識と合理的な対応、対策を行うための基礎的知識を学修する。	
		栄養学 (概要) 栄養素の種類と働き、エネルギー代謝、食品の成分と栄養素など、栄養学の基礎を理解する。その上で、ライフステージに対応した栄養・食生活、患者の栄養状態の評価判定、栄養管理や食事療法など、看護実践に必要な知識を学修する。 (オムニバス方式/全8回) (3 岩間正典/3回) 栄養素の種類と働き、エネルギー代謝、食品の成分と栄養素など、栄養学の基礎について講義する。 (60 高泉佳苗/5回) ライフステージに対応した栄養・食生活、患者の栄養状態の評価判定、栄養管理や食事療法などについて講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	疾病の要因とその発生機序について、細胞障害と生体障害を中心に学修する。細胞障害では、細胞の萎縮、変性、肥大、壊死とアポトーシス、創傷と治癒等について学ぶ。生体障害では、循環障害、臓器不全、炎症、損傷、免疫異常、アレルギー、内分泌・代謝異常、廃用症候群、老年症候群、遺伝子異常、先天異常、腫瘍、中毒等について学修する。	
		病態治療学Ⅰ	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、疾患の診断に必要な臨床検査方法と造血機能障害、免疫機能障害の病態と診断・治療を学ぶ。また、廃用症候群予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助方法など、リハビリテーションについても理解を深め、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。	
		病態治療学Ⅱ	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、循環障害、呼吸器障害、感覚器系機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。	
		病態治療学Ⅲ	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能の障害、内部環境調節機能障害、排泄機能障害、男性生殖器の機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。	
		病態治療学Ⅳ	(概要) 病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、運動機能障害、神経機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。 (オムニバス方式／全15回) (33 佐野徳久／7回) 運動機能障害の病態と診断・治療などについて講義する。 (35 平山和美／8回) 神経機能障害の病態と診断・治療などについて講義する。	オムニバス方式
		看護薬理学	疾病に対する薬物療法、主要な薬物の作用機序とその管理等の知識を学び、薬物の生体内動態、有効性、安全性等、薬理学的知識とその活用を学修する。また、薬の種類及び効果、副作用、与薬方法、管理方法について学び、看護に必要な薬物療法の基礎的知識を学修する。	
社会 健康 保 障 支 援 制 と 度	公衆衛生学	疫学調査等の知見に基づく予防医学的視点を理解する。具体的には、疾病の予防・早期発見・早期治療やリハビリテーションも含む予防活動や、国・地方自治体などの行政や市民組織といった集団・組織的努力により実施する公衆衛生活動について学ぶ。また、関連法規や施策とその運用として地域保健、母子保健、精神保健、学校保健、産業保健等の保健活動について学び、実際の公衆衛生活動に対応できる基礎的知識を学修する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	健康 支援 と 社会 保障 制度	疫学 人間の集団で起きている健康に関する様々な出来事の頻度や分布を測定し、それに関わる要因を推測し、疾病の予防・健康の増進に応用する疫学的な考え方の基礎を学ぶ。集団を対象とした健康や病気に関する情報と統計的な調査を正しく理解する力を養い、健康課題を解決するために、地域をアセスメントして疾病予防・健康増進対策を立案して結果を評価する能力に必要な基礎的知識を学修する。	
		保健情報論 (概要) 根拠に基づく看護を実践するため、患者や地域のデータを集め整理し、統計学的に分析して、根拠にできる資料作成の立案から結論に至るまでを修得する。さらに、社会の状況を掴む能力を得るため、人口統計、主要な健康指標、保健統計調査について理解し、健康に関する統計情報を正しく読み取り、活用するための知識を学修する。 (オムニバス方式/全15回) (6 真覚健/7回) 患者や地域のデータを集め整理し、統計学的に分析する。また、人口統計、主要な健康指標、保健統計調査等の健康に関する統計情報について講義する。 (66 中塚晴夫/8回) データ・情報の種類と性質および処理方法、調査の企画立案、集計法・表示法について講義する。	オムニバス方式
		保健医療福祉行政論 (概要) 保健・医療・介護・福祉施策の企画及び評価について、人々の生活を支える保健医療福祉サービスの変遷、保健医療福祉制度の概要を学ぶ。また、人々の健康に影響する社会問題を解決するために、健康と生活環境との関連に係る疫学調査等の知見に基づき、政策を形成する過程について学修する。 (オムニバス方式/全15回) (2 末永カツ子/8回) 保健医療福祉サービスを中心に、政策を形成する過程を含め講義する。 (67 佐藤英仁/7回) 保健医療福祉制度を中心に、保健・医療・福祉の現状や課題について講義する。	オムニバス方式
		チームアプローチ入門 (概要) 各種医療専門職の協働により患者中心の医療を提供する、チーム医療の概念、チーム医療に参加する専門職の役割、職種間の相互理解の必要性などを学ぶ。特に、看護師、理学療法士、作業療法士の業務や役割と、チーム医療の重要性についての理解を深める。患者中心の医療提供のための、多職種連携の実践につながる基礎的能力を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (2 高橋由美/2回) 看護師の業務や役割について講義する。 (36 金谷さとみ/3回) 理学療法士の業務や役割について講義する。 (37 外里富佐江/5回) チーム医療の概念、チーム医療に参加する専門職の役割と作業療法士の業務や役割について講義する。 (2 高橋由美、36 金谷さとみ、37 外里富佐江/5回) (共同) 多職種連携に関する事例検討を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
専門 科目	基礎 看護 学	看護学概論 看護専門職の基盤となる、看護に関する基本的概念、主要な看護理論と歴史の変遷、看護の対象である人間と健康、生活・環境、看護活動の場やその仕組み、看護に関連する法規などを学ぶ。さらに、現代の保健・医療・福祉のシステムを学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎看護学	看護倫理	看護倫理は、質の高い看護を提供するための指針であり、患者を中心とした、看護における理想的な考え方である。本科目では、看護実践の場で必要な倫理的判断の基盤となる倫理原則や、看護倫理に関する重要な用語等を学ぶ。また、医療現場で生ずる倫理的諸問題についての知識とその解決方法を、具体的事例の検討を通して学修する。	
	看護過程論	(概要) 適切な看護実践のためには、看護を受ける対象のニーズや強みについて、系統的に収集した情報を批判的思考を用いて理解し、実践につなげていくことが重要である。本科目では、基本的欲求に基づくアセスメントから、看護問題を明確にし、看護計画を立案、実施、評価の過程をたどることで、看護実践に用いられる看護過程の意義と方法について学修する。 (オムニバス方式/全15回) (1) 木下美佐子/10回) 看護実践の基礎となる看護過程について、V.ヘンダーソンの理論からアセスメント、看護上の問題点、看護計画立案、実施・評価までの一連のプロセスをクリティカルシンキングを用いて講義する。 (1) 木下美佐子、(11) 二口尚美、21 竹田理恵、23 佐藤由記子、(15) 佐藤清湖、(16) 佐々木重徳/5回) (共同) 情報収集、看護計画の立案・実施・評価の一連の過程を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
	基礎看護技術 I	(概要) 看護実践に必要な共通の看護技術の修得を目指す。具体的には、コミュニケーション、感染防止、安全確保、学習支援などを学び、科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。 (オムニバス方式/全8回) (1) 木下美佐子/1回) 看護技術の根底をなすもの、看護技術に共通する考え方を講義する。 (21 竹田理恵/3回) 看護におけるコミュニケーション、安全確保の技術、学習支援について講義する。 (11) 二口尚美/2回) 感染予防のための基礎知識である標準予防策、消毒・滅菌等を講義する。 (11) 二口尚美、21 竹田理恵、23 佐藤由記子、(15) 佐藤清湖、(16) 佐々木重徳/2回) (共同) 感染防止の技術の基礎・実践を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
	基礎看護技術 II	(概要) 看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術の修得を目指す。具体的には、生活環境、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄を整える知識と技術を学ぶ。また、リスクマネジメント・安全確保等の知識と技術についても併せて学修し、科学的根拠に基づく看護の基礎的知識と実践能力を演習を通して身につける。 (オムニバス方式/全30回) (21 竹田理恵/5回) 清潔と衣生活(手浴、陰部洗浄等)、排泄の知識と援助技術を講義する。 (23 佐藤由記子/6回) 環境調整、清潔と衣生活(口腔ケア、全身清拭等)、食事の知識と援助技術を講義する。 (15) 佐藤清湖/3回) 活動・休息、清潔と衣生活(病床での衣生活)の知識と援助技術を講義する。 (11) 二口尚美、21 竹田理恵、23 佐藤由記子、(15) 佐藤清湖、(16) 佐々木重徳/16回) (共同) 環境調整、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄の援助技術を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	基礎看護学	<p>(概要) 看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ⑮ 佐藤清湖/3回 腹部・感覚器・筋骨格系・神経系に関する系統的なフィジカルアセスメント、心理・社会状態に関するアセスメントについて講義する。 ⑯ 佐々木重徳/4回 ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントのバイタルサインの観察とアセスメント等に関する基礎知識、呼吸器・循環器に関する系統的なフィジカルアセスメントについて講義する。 ⑪ 二口尚美、21 竹田理恵、23 佐藤由記子、⑮ 佐藤清湖、⑯ 佐々木重徳/8回) (共同) バイタルサインの測定、フィジカルアセスメントの技術を担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)	
		基礎看護技術Ⅲ	<p>(概要) 診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術(採血・検体検査)を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) 21 竹田理恵/2回 排泄援助技術(導尿、浣腸、排便、ストーマケア)に関する基礎知識を講義する。 23 佐藤由記子/5回 創傷管理技術、与薬(経口与薬等)に関する基礎知識を講義する。 ⑮ 佐藤清湖/4回 呼吸・循環を整える技術、与薬(注射等)に関する基礎知識を講義する。 ⑯ 佐々木重徳/4回 与薬(中心静脈カテーテル管理、輸血管理)、生体機能管理技術(採血、検体検査・心電図)、診察・検査・処置の介助等に関する基礎知識を講義する。 ⑪ 二口尚美、21 竹田理恵、23 佐藤由記子、⑮ 佐藤清湖、⑯ 佐々木重徳/15回) (共同) 排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬技術、症状・生体機能管理技術(採血・検体検査)、診察・検査・処置援助技術を担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		基礎看護技術Ⅳ	<p>地域看護活動の理念、目的と地域アセスメントについて学び、地域の特性と健康との関連、地域で生活する人々と家族の健康について理解を深める。地域住民の健康を支える保健医療福祉の主要な法制度及び看護が提供される多様な場における地域看護活動について学び、地域・在宅看護学の基盤となる基礎的知識を学修する。</p> <p>在宅療養を支える看護と、多職種との協働における看護の役割を学ぶ。在宅療養者と家族の様々なケアニーズに対応するため、家族を単位として地域での療養を支える看護の目的、役割・機能、倫理的視点、保健医療福祉等の主要な法制度など、地域・在宅看護学に関する基礎的知識を学修する。</p>	
地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論Ⅰ			
	地域・在宅看護学概論Ⅱ			

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	地 域 ・ 在 宅 看 護 学	<p>(概要)療養の場の移行に伴う看護、ケアマネジメント、多職種と連携した地域での生活・療養を支える看護の原則、在宅ケアを支える制度と社会資源などについて学び、多様な場・状況に応じた看護支援方法など、地域・在宅看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ⑫ 高橋由美/11回)</p> <p>療養の場移行に伴う看護、ケアマネジメント、多職種との連携・協働、地域・在宅ケアを支える制度・社会資源、多様な場・状況に応じた看護支援方法について講義する。</p> <p>⑭ 東海林美幸/4回)</p> <p>在宅療養を支える看護活動について講義する。</p>	オムニバス方式
		<p>(概要)地域・在宅看護学援助論の学修を踏まえ、本科目では、多様な場や状況に応じた看護支援方法を演習を通して学ぶ。脳血管疾患療養者、認知症高齢者、在宅難病療養者、医療的ケア児、ターミナル期の療養者等のケアニーズに対応する看護などの在宅看護の原則や援助方法を学び、地域・在宅看護の基礎的な実践力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ⑭ 東海林美幸/10回)</p> <p>脳血管疾患療養者、認知症高齢者、難病療養者、医療的ケア児、ターミナル期の療養者と家族への在宅看護の原則や援助方法について担当する。 (⑫ 高橋由美、⑭ 東海林美幸/5回) (共同)</p> <p>在宅看護における支援方法について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		<p>(概要)地域包括ケアシステムの目的・意義、関連する保健医療福祉制度を理解し、個人・家族が住み慣れた地域で生涯生活する仕組みについて学ぶ。地域包括支援センターの役割・機能について理解を深め、個人・家族を中心として、グループ・関係機関・多職種・専門職が連携し協働する方法、看護職の役割など、地域包括ケアに関する基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) ⑩ 真溪淳子/3回)</p> <p>地域包括ケアシステムの目的・意義、地域包括ケアに関する保健医療福祉制度、ケアマネジメントについて講義する。 (32 手塚有希子/3回)</p> <p>地域包括支援センターの役割と機能、地域包括ケアにおける障害者・子どもへの支援について講義する。 (⑩ 真溪淳子、⑭ 東海林美幸、32 手塚有希子/2回) (共同)</p> <p>地域包括ケアにおける多職種連携について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
成 人 看 護 学	成人看護学概論	看護学における成人期は、心身が成熟した時から老いが始まるまでの期間であり、人生の中で最も長い時期として過ごすことになる。本科目では、成人看護学の理念、成人期の発達段階の特徴、成人の生活を理解し、成人における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・ストレスに関連する健康課題について学修し、成人看護学に関する基礎的知識を学修する。	
	成人看護学援助論	慢性的な健康障害を持つ人の看護、急性期・生命危機状態にある人の看護について理解を深める。呼吸機能等の障害により生活習慣の調整が必要な人、体液・電解質等のコントロールを必要とする人の看護、がん患者の看護について学ぶ。また、高度集中治療と倫理、手術療法によって身体の形態・機能に変化が生じた人の看護について学び、成人期の健康課題を有する人を援助するために必要な基礎的知識を学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	成人看護学	<p>(概要)成人看護学援助論の学修を踏まえ、本科目では急性期に必要な医療機器を装着している人の看護、主要病態に対する応急処置と看護技術、自己検脈、血糖自己測定、ペースメーカーの管理、透析内シャントの管理、インスリン自己注射手技等のセルフケアを促進する技術について、演習を通して学ぶ。成人期の健康課題を有する人を援助する基礎的な実践能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) ④ 阿部春美/1回 急性期に必要な医療機器を装着している人の看護について講義する。 ⑦ 岡崎優子/1回 病態に合わせた患者指導、退院指導の指導過程について講義する。 ④ 阿部春美、⑦ 岡崎優子、⑫ 伊藤茉莉子、27 遠藤美穂子、30 泉田さとみ/28回) (共同) 周術期の看護技術、救急・集中治療時の看護技術、急性期疾患を持つ患者の看護展開、慢性疾患を持つ患者のセルフモニタリング技術やセルフケア技術、慢性疾患を持つ患者の看護展開、患者指導について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	老年看護学	<p>人生100年時代を迎えつつある現代、高齢者は地域や社会の中で多様な価値観を持ち、一人一人異なるライフスタイルで生活している。本科目では、高齢者の生活と加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、保健・医療・福祉制度、老年看護の変遷について学修する。さらに、老年看護の特徴と倫理、関係法規など老年看護学に関する基礎的知識を学修する。</p>	
	老年看護学	<p>(概要)加齢に伴う変化と生活機能への影響を踏まえ、住み慣れた地域で、高齢者が生き生きと生活するための援助方法を学修する。高齢者の生活機能の評価方法、健康維持と介護予防方法、さらに受療状況に応じた看護を学ぶ。高齢者に提供する多様な生活支援・介護予防サービスや看護と介護の協働、多職種連携等の老年看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ⑩ 齋藤美華/9回 高齢者の生活機能の評価方法、健康維持と介護予防方法、受療状況に応じた看護、認知症の支援等について講義する。 ③ 桑田恵美子/6回 地域包括ケアシステム、地域包括支援センターの役割、老年期の看護過程について講義する。</p>	オムニバス方式
老年看護学	<p>(概要)高齢者に特有な症状・疾患・障害として、廃用症候群・脱水症、低栄養・フレイル、転倒・転落、せん妄等がある。本科目では老年看護学援助論の学修を踏まえ、これら高齢者特有の症状等に応じた看護の方法を学修する。事例や状況設定等の演習を通して老年看護の基礎的な実践能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ⑩ 齋藤美華/1回 高齢者の生活機能を整える看護援助の意義について講義する。 ③ 桑田恵美子/4回 高齢者の食生活を支える看護、排泄を支える看護、清潔・衣生活を支える看護、活動と休息を支える看護について講義する。 ⑨ 菅原尚美/3回 高齢者の歩行・移動を支える看護、呼吸・循環機能障害を支える看護について講義する。 ⑩ 齋藤美華、③ 桑田恵美子、⑨ 菅原尚美/7回) (共同) 摂食嚥下障害のある高齢者の看護、排便障害のある高齢者の看護、皮膚掻痒感のある高齢者の看護、視覚・聴覚障害のある高齢者の看護、歩行・移動に障害のある高齢者の看護、生活機能障害のある高齢者の看護等について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	小児看護学	小児看護の特徴と課題、小児各期の発達段階の特徴について学修する。また、小児の健康と周囲の環境との関係性、子どもの権利条約、小児やその家族の人権擁護者としての倫理的判断・行動の根拠を学び、小児看護学に関する基礎的知識を学修する。	
	小児看護学援助論	（概要）本科目では、小児看護の実践に必要な知識を学修する。小児特有の疾患の病態・検査・治療に関する基礎的知識と、主な疾患についての基本的な看護を学修する。また、小児患者家族への理解を深めながら、小児患者を持つ家族への看護方法について学修する。 （オムニバス方式／全15回） 〔5〕 武田美奈子／3回 子どもによくみられる症状とアセスメントと家族も含めたケアについて講義する。 〔13〕 岡崎草代夏／2回 子どものフィジカルアセスメント（バイタルサイン測定、身体測定等）、検査・処置を受ける子どもの看護について講義する。 〔46〕 飯沼一字／10回 小児特有の疾患の病態・検査・治療に関する基礎知識について講義する。	オムニバス方式
	小児看護学援助方法	（概要）小児の健康障害の種類と段階に応じた援助方法を学修する。また、特殊な状況でのアセスメントの視点やプレパレーションの意義と目的について学ぶ。小児看護学援助論の学修を踏まえ、小児特有の援助技術の方法を学び、演習を通して小児看護の基礎的な実践能力を身につける。 （オムニバス方式／全15回） 〔7〕 佐藤幸子／3回 子どもの入院と看護、外来における看護、慢性期・急性期にある子どもとその家族への看護について講義する。 〔5〕 武田美奈子／4回 ハイリスク新生児と看護、在宅における子どもと家族への看護、子どもへの感染症と看護、災害を受けた子どものケアについて講義する。 〔13〕 岡崎草代夏／3回 周術期・終末期にある子どもとその家族への看護について講義する。 〔5〕 武田美奈子、〔13〕 岡崎草代夏／5回（共同） 子どもへのプレパレーションの実際、看護過程の展開について担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
母性看護学	母性看護学概論	母性看護の基盤であるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念、母性看護の意義・特性等、母性看護学に関する基礎的知識を学修する。母性看護の現状と動向、女性のライフステージにおける性と生殖に関する健康の在り方や、家族を含めた女性の生涯にわたる健康支援について基礎的知識を学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	母性看護学	<p>(概要) 時代の変遷とともに、生涯を通じての性と生殖に関する健康をまもるといふ観点から、母性看護の対象や母性看護の役割が拡大している。本科目では、母性看護の対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から広範囲にとらえアセスメントする能力を学ぶ。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期を中心として、各期の特徴や健康問題に対する看護援助方法を含め、母性看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 田辺圭子/8回) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、妊娠期・分娩期の看護について講義する。 〔8〕 佐藤理恵/3回) 産褥期の母体の生理的变化、褥婦と家族・退院後の看護、産褥期の異常と看護について講義する。 (26 坂村佐知/4回) 胎児の発育と生理、新生児のアセスメント、新生児の異常と看護、特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援について講義する。</p>	オムニバス方式
		<p>(概要) 周産期にある女性とその家族を対象に、発達課題や健康上の諸問題に焦点を当て、より良い健康生活を送れるようウェルネスの視点から看護を展開した援助方法を学修する。また、母性看護における特有な援助技術の修得のため、演習を通じて妊娠・分娩・産褥・新生児期に必要な看護技術と実践的なケア、母子保健活動の方法を学び、母性看護の基礎的な実践能力を身につける。さらに次世代の健全育成を目指した実践科学としての母性看護活動を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 田辺圭子/4回) 母性看護に必要な技術、妊産婦の看護に関わる技術と保健指導、褥婦と新生児に関わる技術と保健指導について講義する。 (8 田辺圭子、〔8〕 佐藤理恵、26 坂村佐知/11回) (共同) 看護過程の展開(妊娠期・産褥期・新生児期のアセスメント)、看護診断、母性看護技術と妊産婦・褥婦・新生児のケアについて担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	精神看護学	<p>メンタルヘルスの基本概念、精神保健医療福祉の変遷と看護、精神の健康とマネジメントなどの精神看護学に関する基礎を学ぶ。さらに、心のケアが必要な人々への看護を行う上で、看護者自身がメンタルヘルスについて洞察し、倫理的判断と行動をとるための基礎的知識を学修する。</p>	
	<p>(概要) 精神的な健康問題を持つ人が抱える問題、精神疾患の病態と検査・治療について学ぶ。また、精神看護の展開として、援助関係の基本、患者-看護師関係における看護師の治療的役割、社会における精神患者への支援等、心のケアが必要な人々に対する精神看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 阿部幹佳/3回) 精神障害(症状)と看護、自殺未遂・企図の理解と対応、セルフケア看護理論について講義する。 〔17〕 加藤真理子/2回) 薬物療法と看護、精神科病棟の環境とリスクマネジメントについて講義する。 (69 濱崎諒介/10回) 精神障害の原因と分類、精神疾患の病態と検査・治療に関する基礎知識について講義する。</p>	オムニバス方式	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	精神看護学	<p>(概要) 精神疾患を持つ患者の看護と入院形態、病棟環境の整備と行動制限等の治療的環境について学修する。また、プロセスレコードの記述を通して自己洞察していくことの重要性、精神科内での多職種連携の必要性について学ぶ。精神看護学援助論の学修を踏まえ、演習を通して、精神看護における実践能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 阿部幹佳/3回) 精神科看護の実践の特徴、治療の場としての精神科病棟、治療を受ける人への看護、多職種連携の必要性について講義する。 (⑬ 加藤真理子/5回) 精神疾患を持つ患者の看護について、疾患別に講義する。 (① 阿部幹佳、⑬ 加藤真理子/7回) (共同) プロセスレコードの意義と実際、精神科における看護過程の展開について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	看護の基盤と応用	<p>(概要) 看護過程論で学修した看護過程の基礎に加え、演習を通して実践判断につなげる看護過程の展開方法を深めていく科目である。看護過程のアセスメントとして各看護理論に応用できる代表的な枠組みを紹介し、紙上事例に対し目的をもったアセスメントを行い、看護実践につなげていく展開方法を個人ワーク及びグループワークを通して身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 木下美佐子/5回) 看護過程論の振り返りとゴードンの11の機能的健康パターン、アセスメント(データ収集・人間の反応・解釈分析等)について講義する。 (③ 桑田恵美子/5回) 看護上の問題点の明確化、看護診断、看護目標・成果指標の設定、看護計画の立案、看護の介入・評価について講義する。 (① 阿部幹佳、⑨ 菅原尚美、⑫ 伊藤茉莉子、⑬ 岡崎草代夏、26 坂村佐知、⑭ 東海林美幸/5回) (共同) 紙上事例を用いた看護過程展開方法について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	家族支援論	<p>家族には一人の個人と同様に、誕生し、成長しながら様々な課題に取り組み、老いて終結するライフコースがある。その上で、家族課題等様々な状態にある家族を支援する看護について学ぶ。家族支援を行う際の家族と支援者との関係づくり、相互作用を理解し、様々な健康レベルや発達段階にある多様な家族の問題に対応できるための家族支援に関する基礎的知識を学修する。</p>	
	救急救命学	<p>救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理等をいう。本科目では、救急医療機関の役割と要件、周産期・精神科・小児救急医療体制を理解し、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置方法を学修する。</p>	
	クリティカルケア看護学	<p>クリティカルケア看護とは、疾病や外傷、外科手術等により生命の危機的状態(クリティカル期)にある重症患者への看護である。本科目では、クリティカルケア看護における様々な課題について、文献検討等により理解を深め、クリティカルケア看護を展望する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看護の 基盤と 応用	<p>(概要) 周術期看護とは、患者、家族が手術を決定したときから、手術を終えて、手術侵襲から回復するまでのプロセスに関わる看護である。手術や麻酔による侵襲のある患者を全人的に理解し、術前から術後を通して合併症予防、苦痛の緩和を行う方法を学ぶ。また、早期回復を促す援助や家族を含めた退院後の生活への適応を促す援助も含め、周術期にある患者・家族に対する基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 佐藤幸子/1回) 子どもとその家族と手術について講義する。 (8 田辺圭子/1回) 帝王切開を受ける産婦の看護について講義する。 (① 阿部幹佳/1回) 精神疾患・障がい者と手術について講義する。 (⑦ 岡崎優子/1回) 基礎疾患のある患者の周術期看護について講義する。 (⑨ 菅原尚美/1回) 高齢者と手術について講義する。 (⑩ 佐々木重徳/10回) 周術期看護の概要、周術期にある患者・家族の看護について講義する。</p>	オムニバス方式	
		周術期看護論		
		リハビリテーション論	<p>リハビリテーションは障害を有する者を対象とする。医学や医療技術の進歩発展、超高齢化とともに、障害とかかわって生活することは誰にでも起こりうる社会となった。本科目では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念並びに生活機能とその障害を正しく理解し、生活の質(QOL)を高める援助について学修する。また、リハビリテーション医療の特性と、看護職とリハビリテーション職を含めた多職種連携について学び、地域包括ケアシステムを学修する。</p>	
		緩和ケア論	<p>緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOL(生活の質)の向上を目指すアプローチである。患者とその家族が抱える痛みや様々な問題を早期に見出し、的確に評価・対応することで、苦痛を予防し和らげることを目指し、その人らしい人生・生活を支える緩和ケアのあり方について理解を深める。患者とその家族が直面する身体的問題、心理社会的特徴と、求められる看護を理解し、緩和ケアに関する基礎的知識を学修する。</p>	
	看護の 統合と 実践	医療安全管理論	<p>本科目では、国の医療安全対策とその背景、組織として取り組む医療安全の意義とその体制、医療事故に伴う看護職の法的責任について理解する。ヒューマンエラーと事故防止策、感染予防対策等について学修する。倫理観に基づく医療安全管理の基礎的知識も学修する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護の統合と実践	災害看護論	<p>(概要) 災害の種類と特徴、災害サイクルに応じた課題と対処方法等災害発生時に必要な看護の知識と技術、関連する主要な法制度を学ぶ。災害による人々と社会への影響、健康や生活上の問題について理解し、災害時のトリアージ、応急処置、避難所の開設・運営、要配慮者への対応等を学び、災害看護の基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 末永カツ子/1回)</p> <p>災害の種類と特徴、災害サイクルに応じた課題、災害看護学の基本概念について講義する。</p> <p>(① 阿部幹佳/1回)</p> <p>被災当事者と遺族への精神的支援、支援者のストレスマネジメントについて講義する。</p> <p>(30 泉田さとみ/2回)</p> <p>災害サイクル各期に応じた看護活動、災害拠点病院・DMATの活動について講義する。</p> <p>(⑩ 佐々木重徳/1回)</p> <p>災害に関連する主要な法制度、関係機関の役割について講義する。</p> <p>(2 末永カツ子、26 坂村佐知、30 泉田さとみ、⑩ 佐々木重徳、32 手塚有希子/1回) (共同)</p> <p>災害発生時に必要な看護についての総括を担当する。</p> <p>(2 末永カツ子、⑩ 佐々木重徳、32 手塚有希子/4回) (共同)</p> <p>東日本大震災後の被災地での活動、復興期における被災地の実際、被災住民の心のケア、地域再構築について担当する。</p> <p>(26 坂村佐知、30 泉田さとみ、⑩ 佐々木重徳、32 手塚有希子/5回) (共同)</p> <p>災害トリアージ、応急処置・搬送法、生活環境整備、要配慮者への対応、周産期福祉施設について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	看護管理論	<p>看護の対象となる人々に最も有効で質の高い看護サービスを提供するための活動体制、組織化、組織運営に必要なマネジメント、チーム医療及び他職種との協働、看護における教育的役割と機能について学び、看護管理の基礎的知識を身につける。</p>	
	国際看護論	<p>グローバルヘルスの動向を踏まえ、国際的視野から世界の人々の健康問題や保健・医療・看護の現状と課題を理解する視点を養う。具体的には、日本が行っている国際看護活動の実践例等を通して、発展途上国も含む国際社会における看護実践のあり方と看護の役割を学修する。</p>	
	スタートアップセミナー	<p>(概要) 初年次教育科目として、大学における学修に必要な基礎の修得を目指す。大学生活における時間管理や学修習慣等を身につけ、学ぶことの目的や目標を明確にする。自ら学修するための文献・資料収集方法、web検索方法、レポートやプレゼンテーション資料作成方法等、大学生としての学びに欠かすことのできないスキルを学修する。また、グループワーク等の演習を通じて、意欲と探究心を高め、協調性や自主性の伸長も目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 真覚健/2回)</p> <p>大学生活におけるこころの健康、対人関係スキルについて講義する。</p> <p>(③ 桑田恵美子/4回)</p> <p>大学で学ぶことの意義や目標、進路選択、看護のキャリア・キャリアデザインについて講義する。</p> <p>(⑪ 二口尚美、21 竹田理恵、23 佐藤由記子、⑮ 佐藤清湖、⑯ 佐々木重徳/9回) (共同)</p> <p>大学生活における時間管理・学修習慣、文献・資料収集方法、web検索方法、レポート作成、プレゼンテーションスキル、ディスカッションスキルについて担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看護の統合と実践	<p>(概要) 1年次の学修を踏まえ、興味関心のある領域は何か、どのような看護師になりたいか、どのような社会人になりたいか等、卒業後の人生を具体的に描きながら、自身のキャリアについて考察する。将来を具体的にイメージしながら、自身の人生を切り拓いていくための土台作りをし、学修目的の更なる明確化と学修意欲向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (2 末永カツ子/1回) 看護専門職(保健師他)として活躍する人が歩んできたキャリアについて講義する。 (1 木下美佐子/2回) キャリアデザイン・看護専門職の概念と生涯学習の意義について講義する。 (7 佐藤幸子/1回) 大学院教育の目的と意義について講義する。 (4 阿部春美/4回) 現任教育の目的と方法、看護専門職(看護専門師他)として活躍する人が歩んできたキャリア、自らのキャリアデザイン、本科目のまとめについて講義する。</p>	オムニバス方式
	キャリアデザインセミナー		
	看護研究 I	看護研究における倫理、文献検索の方法、研究方法と研究のプロセスについて学び、看護実践の中で疑問あるいは課題として捉えた現象を解決するために看護研究を活用する基礎的知識を学修する。	
	看護研究 II	看護研究 I で修得した知識に基づき、ゼミナール形式により学生自身が研究テーマを決定して看護研究を進め、レポートを作成し発表する。演習を通して研究的な思考過程と看護研究を遂行する基礎的能力を身につける。	共同
	看護学総合講義	<p>(概要) 看護実践への活用を目指し、これまで学修した看護の知識と技術を整理し、結びつける。具体的には、専門基礎科目や専門科目で学修した内容を概観し、自身の修得度を確認するとともに、多様な状況にある対象者の看護課題を論理的に分析、評価する。看護の現場を想定した学びを通して、自身の知識や技術の弱点を補強し、4年間の総まとめを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5 武田美奈子/2回) 小児各期における健康増進のための子どもの看護、健康課題をもつ子どもと家族の看護について講義する。 (1 阿部幹佳/1回) 精神疾患・障害がある人と家族の人権を守り生活を支援する看護について講義する。 (7 岡崎優子/5回) 呼吸・循環など人体の機能障害のある人の看護について講義する。 (8 佐藤理恵/2回) 女性のライフサイクル各期の看護、妊娠・分娩・産褥期・新生児期の母子と家族の看護について講義する。 (9 菅原尚美/2回) 多様な生活の場における高齢者と家族の看護、健康状態に対応した高齢者の看護について講義する。 (10 真溪淳子/1回) 社会で生活する人々の健康支援と社会保障制度について講義する。 (11 二口尚美/1回) 看護実践に適用する看護技術と判断プロセスについて講義する。 (14 東海林美幸/1回) 地域包括ケアにおける在宅療養者と家族の看護について講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	臨 地 実 習	基礎看護学実習Ⅰ	病院や地域における看護実践活動を見学し、看護の対象としての人間と看護の場、看護の役割や機能の実際について理解を深める。また、各健康段階にある生活者とコミュニケーションをとり、看護の対象としての人について身体的・心理的・社会的・文化的側面を理解し、看護実践能力の基盤を修得する。	共同
		基礎看護学実習Ⅱ	患者の療養環境を理解し、健康問題を持つ対象理解に向けた情報を収集した上で、日常生活における問題を論理的に捉え援助することを学ぶ。また、対象者のニーズを捉え、情報の持つ意味を考えた看護計画を立案し、適切な看護が実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。	共同
		地域・在宅看護学実習Ⅰ	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、地域で暮らす人々と家族の生活環境と健康との関連をアセスメントし、対象者のニーズを把握する地区踏査・地区視診の実際を学ぶ。また、母子・成人・高齢者を対象とする保健・福祉の場における地域の人々の生活を理解し、健康状態について把握する実習を通して地域・在宅看護の基礎的な実践能力を修得する。	共同
		地域・在宅看護学実習Ⅱ	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、在宅で療養する人々と家族を生活者として捉え、健康状態についてアセスメントする方法の実際を学ぶ。また、居宅、通所施設、入所施設等地域包括ケアシステムにおける多様な場に応じた多職種連携と看護活動の実際を学び、地域・在宅看護の実践能力を修得する。	共同
		領域横断看護実習	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、問題解決の系統的アプローチによる情報収集、目標設定、看護計画立案、実施、評価までの一連の看護過程の展開と看護の実際を学ぶ。特に長期的に経過する健康障害や機能障害の特性及び精神的、社会的な影響を理解することを通して、各発達段階や健康段階に応用できる基礎的な看護実践能力を修得する。	共同
		成人看護学実習	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、健康障害を持ち手術や急性状態にある患者・家族を多面的に理解し、対象者のニーズを捉え、身体侵襲に伴う変化への対応と心身の回復及び社会生活への適応が図れるよう支援する看護の実際を学び、成人看護の実践能力を修得する。	共同
		老年看護学実習	健康段階、発達段階、看護の多様な場と倫理を踏まえ、これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、高齢者の健康の促進、回復、生活の質の維持向上を目指す、老年看護の実際を学ぶ。老年期の対象者のニーズを捉え、保健・医療と福祉の連携についても学修し、老年看護の実践能力を修得する。	共同
		小児看護学実習	健康障害を持つ子どもと家族がおかれている状況を理解し、個々の発達段階と健康段階を踏まえた援助について学ぶ。また、これまで学んできた知識・技術・態度を基盤に、子どもやその家族、医療従事者との関わりによる看護の実際を学び、小児看護の実践能力を修得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	臨 地 実 習	母性看護学実習	多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえ、母子とその家族のニーズをとらえ、妊娠・分娩・産褥期(新生児の各期)にある母子とその家族の心身の変化を理解する。これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、積極的にかかわりながら母性看護の実際を学び、母性看護の実践能力を修得する。	共同
		精神看護学実習	精神疾患や障害を持つ対象のニーズを捉え、精神疾患や障害を持つ対象との関わりを通してこころを病むということを理解する。これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に精神疾患を抱える人と関わるプロセスを通して精神看護の実際を学び、精神看護の実践能力を修得する。	共同
		統合実習	これまで学修した知識・技術・態度を統合する実習であり、自ら課題に取り組み、解決するための行動過程を含め、自身の看護実践能力の向上を図る科目である。多様な実践の場で学んだ看護活動、看護管理の実際などを踏まえ、チームの一員として協働して役割を遂行し、総合的・継続的に看護を実践することを目指す。	共同
公 衆 衛 生 看 護 学		公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護は、公衆衛生の理念に基づき、公衆衛生学、看護学を基盤とした知識・技術を用いて、地域で生活するあらゆる人々の健康の保持・増進、疾病予防、生活の質の向上を目的とする。本科目では、個人・家族だけでなく、集団・組織、地域社会までを対象として、意図的・組織的に働きかける看護活動について学び、公衆衛生看護学に関する基礎的知識を学修する。	
		公衆衛生看護学援助論 I	(概要) 地域の健康に関する情報をアセスメントし、健康課題を明らかにするための地域診断の理論と方法を学ぶ。地域診断に基づく計画策定・実践・評価について理解を深めるとともに、学校・産業の場における健康相談、健康教育、組織活動など、対象者や関係者と協同した健康課題解決のプロセスを学修する。 (オムニバス方式/15回) (4 小林淳子/5回) 学校の場における健康相談・健康教育・組織活動等の公衆衛生看護活動について講義する。 (10 真溪淳子/10回) 地域診断の理論・目的、地域アセスメントによる健康課題把握、保健事業計画・実施・評価、産業の場における健康相談・健康教育・組織活動等の公衆衛生看護活動について講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 公衆衛生看護学	公衆衛生看護学援助論Ⅱ	<p>(概要) 市町村や保健所等行政の保健師が実施する母子保健、成人保健、高齢者保健、健康づくり、感染症・難病対策、健康危機管理の概要と関連法規、保健師の役割を理解する。地域包括ケアシステムが推進される中、多職種連携における保健師の機能、併せて行政の場で個人・家族、集団・組織を対象とする具体的な支援方法を学び、保健師の実践能力に関する基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (2 末永カツ子/2回) 障害児・障害者に関する法律と体系、保健師の役割と支援方法について講義する。 (4 小林淳子/6回) 母子保健・成人保健・高齢者保健・健康づくりに関する法律と体系、保健師の役割と支援方法について講義する。 (10 真溪淳子/4回) 精神保健・難病対策に関する法律と体系、保健師の役割と支援方法について講義する。 (10 真溪淳子、32 手塚有希子/3回) (共同) 感染症対策・健康危機管理・地域包括ケアシステムに関する法律と体系、保健師の役割について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	公衆衛生看護学援助方法	<p>(概要) 公衆衛生看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえ、事例を用いて個人・家族、集団・組織、地域の健康に関する情報をアセスメントし、健康課題を把握して改善する支援の計画・実施・評価を行う。地域診断のプロセスと、地域診断により把握した健康課題に基づく家庭訪問、健康相談、健康教育等の具体的な方法を演習を通して学び、保健師活動において必要とされる実践能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (2 末永カツ子、4 小林淳子、10 真溪淳子、32 手塚有希子/6回) (共同) 家庭訪問・健康相談事例に基づき報集した情報をアセスメントして健康課題を把握し、健康課題に対応した支援として家庭訪問・健康相談計画の立案・実施・評価について担当する。 (4 小林淳子、10 真溪淳子、32 手塚有希子/9回) (共同) 事例を用いて情報収集・地区踏査・ロールプレイによるアセスメントを行い、健康課題を把握し、健康課題に対応した支援として健康教育の立案・媒体作成・実施・評価について担当する。</p>	オムニバス方式・共同
	公衆衛生看護管理論	<p>(概要) 看護管理論の学びと統合し、組織・地域の健康水準の向上、職員や住民の権利の保障、効果的・効率的な公衆衛生看護活動の実践を目的とする公衆衛生看護管理の機能を学ぶ。保健師は新任期から公衆衛生看護管理機能を担うことを理解し、地域診断と保健師活動に基づく事業化・施策化のプロセス、並びに健康危機管理における保健師の役割と機能について事例を通して学び、公衆衛生看護管理に関する基礎的知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (2 末永カツ子/9回) 公衆衛生看護管理の目的・機能、行政における事業化・施策化のプロセス、健康危機管理における保健師の役割等について講義する。 (4 小林淳子/3回) 地域診断に基づく保健福祉事業計画・評価計画・予算・評価について講義する。 (2 末永カツ子、10 真溪淳子、32 手塚有希子/3回) (共同) 公衆衛生看護管理・保健福祉施策化・事業化・健康危機管理の事例検討について担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学実習Ⅰ	共同
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。
		英語Ⅰ	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅰでは、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。
		英語Ⅱ	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅱでは、英語Ⅰで学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。
		英語Ⅲ	現代の日本において、様々な国籍の人が生活する中、医療現場においても英語を使う機会は格段に増え、また、将来研究を続けていく上では必要不可欠な言語である。 英語Ⅲでは、英語Ⅰ・英語Ⅱで学んだ内容を基に、臨床や研究に活かせる医療英語を学修する。さらに、専門分野における英語論文の構成や、論の進め方に触れ、国際的な視点から学術活動への興味関心を高めていく。
		情報処理Ⅰ	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理Ⅰでは、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活に必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。
		情報処理Ⅱ	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。
	ICT活用技術	情報通信技術（ICT）の発展により、将来、医療従事者となる学生にとって、ICTを活用する基礎的能力を身につけていることが重要となる。 ICT活用技術では、ICTの特徴的な内容について理解を深め、医療福祉分野においてもICTの進化に対応し、活用できる技術を、具体的な事例を通して学修する。さらに、ICTを活用したグループワーク等を行い、ICT活用技術の修得を目指す。	
人文科学系	哲学	哲学とは、真理を探究し、物事の本質を追究する学問である。代表的な哲学者等の思想を学び、深く自身の考えを巡らせ、人間とは何かを思索する。哲学の歴史や流れを学びながら、人間は何のために生きるのか、幸福とは何か、自由とは何か、愛とは何か、正義とは何か等の普遍的な問いについて深慮する。個の内面を徹底的に洞察するという哲学的な思考法を学び、深く考えることの価値を知ること、自身の人生をより深みのあるものにしていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学系	生命倫理学	医療は生物、心理、社会的な包括的アプローチが求められる。医学の進歩発展過程や学際的に問われる倫理（生殖技術・移植医療・遺伝子技術）、医療現場で問われている倫理的問題（人工妊娠中絶・安楽死・尊厳死）等を具体的な課題を通して学ぶ。医療従事者として必要とされる、相手を尊重し敬意を持って接する姿勢や、人間の尊厳についての考えを深め、倫理的態度を身につけることを目指す。
		心理学	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情、動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎的知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。
		教育心理学	人間は、成人するまでに受ける教育から大きな影響を受ける。乳児期から青年期までの成長過程における心や知能の発達、人格形成等を、教育学的観点から考察する。 人間の発達に関する基礎的な知識を身につけ、記憶・動機づけ等の学習について学ぶ。また、個人の行動傾向を指す総合的な概念であるパーソナリティについても学修する。教育過程における様々な現象を心理学的に明らかなものとし、効果的な教育方法の検討をする。
		宗教と民族	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教）を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。
		人間関係論	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者（対象者）によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。
社会科学系		法学入門	社会生活上で必要な知識として、「日本国憲法」「民法」「刑法」を取り上げ、「法」の基礎を学修する。とりわけ最も身近な法律のひとつである「民法」を中心に学び、日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げ、法の観点から問題点、解決方法、回避方法を検討する。具体的な事例を基に、法と照らし合わせて学修することで、学修者自身が適切な選択・判断ができることを目指す。
		日本国憲法	日本国憲法の概要、基本理念・原理について学ぶ。国民の権利及び義務、幸福追求権、平和主義、生存権の内容に触れ、日常生活との憲法との関わりを学ぶ。また、身近で起こりえる問題について、日本国憲法を基に解釈し、自ら活用できることを目指す。医療従事者、教育者として必要な考え方も日本国憲法から学び、修得する。
		経済と政策	一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目	社会科学系	教育学概論	教育に関する基本的な理念・思考、教育方法を学び、人の成長過程における教育の重要性を理解する。自身への教育として、成人学習理論、生涯学習等の基本的な知識を学修し、他者への教育として人材育成を軸に、教育計画（目標）の設定方法や教育活動（内容）を学修する。この科目は自身の教育経験も踏まえて、教育とは何かを改めて考える機会とする。	
		社会学	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。	
		社会保障論	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療をとりまく環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。	
	自然科学系	物理学	人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。	
		生物学	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。	
		自然環境と災害	自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起し、災害となって新たな問題を引き起こす。 この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生のメカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。	
統計学入門		統計学の入門として、情報化社会の中で公表されている数字・データを正しく読み解き、理解する基礎的知識を身につける。統計学を学ぶ上で必要な、分布、分散、標準偏差、確率等を利用して、身近な数字・データを基に統計の基礎を学ぶ。		
健康スポーツ I	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツ I では、健康を維持するために必要な食生活と運動（スポーツ）の重要性を学ぶ。生活習慣病と運動・食生活の関係、疾病と健康状態、体力に応じた運動方法を学ぶ。			

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学系	健康スポーツⅡ 健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツⅡでは、実技を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法を学ぶ。また、実際に体験することにより、運動（スポーツ）の意義・目的を理解し、教育者・指導者としての能力の向上を目指す。	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ 解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本科目では、人体の構造と機能に係る基礎知識となる運動器系の骨・筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経を中心に学修する。	
		解剖学Ⅱ 本科目では、特に生命維持に必須の機能である植物性機能と、感覚と神経機能及び運動に関連する動物性機能について学ぶ。植物性機能では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の位置関係や構造について学修する。動物性機能では、中枢神経系、末梢神経系及び各種感覚器系について学修する。	
		解剖学演習 （概要）本科目では、解剖学Ⅰで学んだ骨及び筋の名称を実際の骨模型及び筋模型を用いて立体的な位置関係を確認する。また、骨や筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について、人体でイメージできるようになるよう学修する。 （オムニバス方式/全15回） ② 大和田 宏美、① 大友 篤/10回（共同） 四肢の骨及び筋について担当する。 ② 大和田 宏美、21 荒牧 隼浩/5回（共同） 骨や筋の位置関係、体幹の骨及び筋について担当する。	オムニバス方式・共同
		解剖学実習 （概要）理学療法及び作業療法における検査・測定及び治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。本科目では、理学療法及び作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。また、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、部位ごとに触診する技術を学修する。 （オムニバス方式/全20回） ⑤ 伊橋 光二、② 大和田 宏美、⑤ 鈴木 裕治/4回（共同） 人体解剖実習を担当する。 ⑤ 伊橋 光二、⑤ 鈴木 裕治/16回（共同） 骨・関節の触診及び軟部組織の触診について担当する。上肢、体幹、下肢の体表解剖について担当する。	オムニバス方式・共同
		生理学Ⅰ 生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素（細胞 - 組織 - 器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。生理学Ⅰでは、主に動物性機能について学ぶ。本科目では、中枢神経系、末梢神経系、骨格筋系、感覚器系の構造（形態）機能について学修する。人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ（メカニズム）についての基礎的な知識を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅱ	生理学Ⅱでは、主に植物性機能について学ぶ。本科目では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の機能について学修する。人体を構成するそれぞれの臓器がどのようにつながり、どのような機能を担っているのかを系統的に学ぶことにより、人体の生理機能の全体像を理解するために必要な基礎的な知識を身につける。	
		生理学実習	本科目では、生理学Ⅰ・生理学Ⅱで学修した内容について、実際の測定・実験を通し、身体各機能についてさらに理解を深め、その生理学的メカニズムについて学修する。主に反射、筋電図、感覚検査、体組成計測、血圧測定、心電図、肺機能測定、尿組成、神経伝導速度、重心動揺計による測定などを実施する。	共同
		運動学総論	運動学は、身体運動の仕組みについて学ぶ理学療法及び作業療法の基礎となる重要な学問である。人間の運動の科学と定義される運動学は、医学、物理学、心理学、社会学など多くの学問分野を統合したものの上に成り立つ応用学問であると言える。本科目では、力学の基礎や筋骨格系の構造と機能や関節運動、姿勢制御や歩行周期、運動の中樞神経機構、運動学習理論など運動学の基礎的な知識を身につける。	
		運動学演習Ⅰ	運動学演習Ⅰでは、主に上肢と体幹の運動学について学ぶ。上肢と体幹の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靭帯及び筋の作用について学修する。解剖学・生理学の知識に基づき科学的にヒトの活動制御の仕組みを理解し、分析する力を身につける。また、分析により問題点を把握できるようになる。	共同
		運動学演習Ⅱ	（概要）運動学演習Ⅱでは、主に下肢の運動学について学ぶ。下肢の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靭帯及び筋の作用や実際の身体運動における役割・機能について学修する。また、姿勢・歩行における正常・異常、身体運動におけるエネルギー代謝などに関する基礎的な知識を身につける。 （オムニバス方式/全15回） ① 原 和彦、② 大友 篤、12 坂上 尚穂/1回（共同） 下肢の関節構造の概要について、骨模型を用いながら演習形式の授業を実施する。 ③ 大友 篤、12 坂上 尚穂/14回（共同） 主に、下肢の運動と関節構造について、骨模型と触診を用いて演習形式の授業を実施する。	オムニバス方式・共同
		運動学実習	本科目では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、運動学において学修した知識を応用する。主に、姿勢、重心、歩行周期、歩行距離の測定や歩行時の筋活動やエネルギー消費などについて測定し、各実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	機能解剖学実習	理学療法及び作業療法では運動器疾患を評価・治療する機会も多く、運動器に関する解剖学として骨・関節・筋・靭帯等の構造を理解しておく必要がある。また、運動学では筋作用による関節運動や、靭帯による関節運動の制動を理解しておく必要がある。本科目では、解剖学や運動学から修得した知識をもとに、触診を通して身体構造と身体運動の知識を結びつけ、正常な関節構成体の構造と機能について学修する。	共同
		臨床運動学	（概要）整形外科、神経内科、脳神経外科などの臨床医学分野のリハビリテーションを行う場合に、神経系、運動器系の疾患に由来する運動障害をきたした症例を経験することが多い。運動学は人間の運動の科学として位置づけられ、人間の正常運動に関するものは基礎運動学として扱われる。本科目では、基礎運動学の知識を身につけた上で、様々な疾患によって生ずる運動機能障害、正常運動からの逸脱、疾患特有の姿勢や動作と病態・障害像及び疾患別の異常歩行などについて学修する。 （オムニバス方式/全15回） ① 網本 和/8回 中枢神経疾患の運動機能障害について講義する。特に片麻痺の基本動作の分析や異常歩行などについて講義する。 ② 原 和彦/7回 臨床運動学の総論と動作分析の基礎について講義する。特に下肢の関節障害に対する理学療法の考え方について講義する。	オムニバス方式
		人間発達学	本科目では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の発達段階の視点で学修する。それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。	
回復病過程の障害の成り立ち及び	薬理学	薬理学とは薬物の作用メカニズムを学ぶ学問である。本科目では、薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について、作用機序、体にもたらす効果、副作用が起こるメカニズム等を学修し、疾病の治療や予防において使用される薬物についての知識を身につける。		
	病理学	病理学とは、「やまい（病）」の「ことわり（理）」を学ぶ学問である。種々の疾患（腫瘍、循環器系疾患、免疫疾患など）によって、組織・細胞は様々な適応（環境変化に対する適応）をしているが、本科目ではその意味と疾患の関わりについて学修する。また、内因・外因を含む疾患や障害の病因論、感染症や腫瘍の病理的变化などについても学修する。		

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進	小児科学	本科目では、小児疾患の原因・病態と、受胎から思春期に至る身体・精神・言語の成長発達段階の理解を通し、小児に認められる代表的な症候とその原因疾患について学修する。特に、小児における疾病と障害、発達過程や回復過程を学ぶ中で、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を修得する。
		老年学	老年学とは老年者の疾患などを研究対象とする老年医学、老年者の社会的問題を研究対象とする老年社会学、老化の機序などを研究対象とする基礎老化学を3つの柱とする学問である。本科目では、老化に伴って生じる内臓諸器官、運動器、神経系、感覚器、精神活動の変化、その他の加齢変化について学修する。また、高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、障害高齢者を受け入れる療養上の問題点についても学修する。
		内科学	内科学では、主に身体の臓器（内臓）を対象とし、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候、症状、原因、特徴、治療などについて学ぶ。循環器疾患、内分泌・代謝性疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝疾患、血液疾患などの様々な疾患についての理解を深め、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。
		神経学	本科目では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患を中心に、その病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能、様々な障害やその予後について学修する。特に、脳血管障害、変性疾患や神経筋疾患など神経に障害をきたす疾患についての理解を深め、病理的な知識だけでなく、画像所見も含めた評価や検査及び治療法について学修し、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。
		整形外科	運動器には、脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靭帯、筋、血管、皮下組織、脊髄及び末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態には、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害などの病態と、先天性障害や変形、骨・関節の外傷などの運動器に特徴的な病態がある。本科目では、運動器疾患に関する基礎的な知識を身につけ、運動器疾患の診断、治療について学修する。
		精神医学	精神医学は、精神機能あるいは精神活動の障害（精神障害）についての医学である。精神機能あるいは精神活動は、一方では脳の高次機能、他方では性格や状況などと関連している。また、現代の疾病構造を理解する上でも、精神疾患の理解は重要である。精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類、治療などについて学び、その障害を持つ対象者の理解に必要な基本的事項や、臨床で必要とされる精神医学の知識を修得する。

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人を対象とする実践的な学問である。心理学の知識と技術を用いて、心理的苦悩を軽減するために心理援助を行い、問題の解決や改善を目指す。本科目では、臨床心理学の基礎的な理解を目的に、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理アセスメントや代表的理論、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士及び作業療法士として対象者と関わる中で、対象者の心理を理解し、心理的適応援助につながる基礎的な知識を学修する。	
		栄養学	（概要）栄養は、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。栄養過多は高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの生活習慣病を惹起する可能性がある。一方で、栄養不足は生命の恒常性を保持することが困難になる。本科目では、栄養に関する基礎的な知識を身につけ、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学修する。 （オムニバス方式/全8回） （27 岩間 正典/3回） 栄養に関する基礎的な知識について講義する。 （57 高泉 佳苗/5回） 理学療法及び作業療法の実施に必要な栄養管理について講義する。	オムニバス方式
		救急救命学	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理などをいう。本科目では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。	
		公衆衛生学	公衆衛生とは地域社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延ばし、健康と活力を増進するための科学と技術と定義され、地域社会の組織的な努力に重点がおかれている学問である。本科目では、我が国における各種疾病統計を踏まえ、実際に地域社会で展開されている公衆衛生活動及びその基盤となる保健・医療・福祉制度の概要について学修する。	
		言語聴覚療法概論	リハビリテーションを行う上で、様々な障害を抱えた対象者に対して、多数の医療関連職種が連携し、対象者の障害にあわせた支援を提供している。特に、理学療法士及び作業療法士が、言語療法について学修する意義は大きい。言語聴覚障害では、コミュニケーションに必要な言語や聴覚の機能が低下し、当事者が自分の問題を訴えることが難しいことが多い。本科目では、言語聴覚障害や、障害に付随して生じる問題の理解と専門的な対応について学ぶ。また、全ての障害領域に共通した診療理念、評価や治療を含む、臨床の進め方、その他の医療関連職種との連携について学修する。	
臨床検査・画像診断学	本科目では、各種画像診断機器を用いた単純X線検査、CT検査、MRI検査、血管造影検査、核医学検査、超音波検査など各種検査画像の特徴と読影方法について学ぶ。理学療法及び作業療法の対象となる代表的疾患の画像所見について理解し、疾患の症状と画像から得られる情報により病巣部位の同定と症状の因果関係について理解する。画像所見から効果的な治療介入を行うための、基礎的な知識を身につける。			

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーションは障害を有する者を対象とする。医学や医療技術の進歩発展、超高齢化とともに、障害と関わって生活することは誰にでも起こりうる社会となった。本科目では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念ならびに生活機能とその障害の正しい理解を目指す。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。	
	チームアプローチ入門	<p>(概要) 包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。医療の現場では、様々な医療専門職が協働するチーム医療が基本となり患者中心の医療を提供している。本科目では、理学療法士、作業療法士、看護師等の専門職の活動や役割を学び、チームアプローチの重要性について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 金谷 さとみ/3回)</p> <p>理学療法士の役割・専門性、チーム医療の実際（理学療法士からの視点、病院）について担当する。</p> <p>(8 外里 富佐江/5回)</p> <p>チーム医療、患者中心の医療、チーム医療におけるコミュニケーション、作業療法士の役割・専門性、チーム医療の実際（作業療法士からの視点、在宅、地域医療）について担当する。</p> <p>(29 高橋 由美/2回)</p> <p>看護師の役割・専門性、チーム医療の実際（看護師からの視点）について担当する。</p> <p>(6 金谷 さとみ、8 外里 富佐江、29 高橋 由美/5回) (共同)</p> <p>事例検討（事例提示、グループワーク、発表準備、発表、まとめ）について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	保健医療福祉連携論	<p>(概要) 包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。医療の現場では、様々な医療専門職が協働するチーム医療が基本となり、患者中心の医療の提供を行っている。高度化する医療と多様化する保健医療福祉のニーズに対応できる専門職を目指して、チームとなって連携することの意義と役割を学び、連携協働に必要な実践的な能力を身につける。本科目では、事例を通して多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 外里 富佐江/6回)</p> <p>IPW（専門職連携）総論・各論、チームワークの実際（連携する際の工夫を考える）、他職種の専門性を聴く（医療・福祉の現場）について担当する。</p> <p>(14 小関 友記、15 伊藤 大亮、16 須藤 あゆみ、21 荒牧 隼浩、23 熊谷 竜太、24 高橋 慧/6回) (共同)</p> <p>模擬IPW（チーム形成、自己紹介、事例提示、グループワーク、発表準備、発表）について担当する。</p> <p>(29 高橋 由美/1回)</p> <p>他職種の専門性を知る（看護師）について担当する。</p> <p>(57 高泉 佳苗/1回)</p> <p>他職種の専門性を知る（栄養士）について担当する。</p> <p>(59 櫻庭 ゆかり/1回)</p> <p>他職種の専門性を知る（言語聴覚士）について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論 (概要) 本科目は、理学療法の基軸を理解するため科目である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え方、対象疾患や治療手段、理学療法士に関連する法規や保険制度及び世界の理学療法の現状と課題について学修する。 (オムニバス方式/全15回) (1 網本 和/7回) 理学療法の歴史や対象疾患の知識と治療手段、世界の理学療法について講義する。 (5 伊橋 光二/4回) 理学療法士をとりまく法制度や学問体系化と研究法について講義する。 (6 金谷 さとみ/4回) 理学療法組織と部門管理、地域包括ケア、災害への対応について講義する。	オムニバス方式
		トランスレーショナルセミナーⅠ トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅠでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、理学療法を知ることの重点を置く。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。	共同
		トランスレーショナルセミナーⅡ トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。	共同
		トランスレーショナルセミナーⅢ トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅢでは、様々な疾患を想定した臨床推論を、グループワークを通じて学修し、理学療法への理解を深めることに重点を置く。また、グループワークにおける症例検討を通して、自身とは異なる見解を受け入れ、問題解決のための思考力を身につける。	共同
		トランスレーショナルセミナーⅣ トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅣでは、グループワークや問題解決型学習(PBL: Problem Based Learning)形式での課題遂行を行い、理学療法の各専門領域や最新トピックなどから理学療法に関する様々なテーマを学修し、理学療法に関する見識を深める。また、理学療法士としてのキャリアデザインについてもふれる。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	基礎理学療法学	理学療法研究法Ⅰ	本科目では、理学療法における科学の重要性について理解し、研究を実践する上で必要な基本的知識と研究方法について学修する。理学療法における研究の意義、目的、研究テーマ、研究方法、文献検索や情報収集、研究計画書の作成までの研究を実施する上で必要な一連の過程について学修する。また、研究データの解析に必要な統計学的解析方法についても学修する。	
	理学療法研究法Ⅱ	理学療法研究法Ⅱ	理学療法研究法Ⅰで学修した知識をもとに、理学療法における研究の具体的な方法論について学修する。研究テーマから仮説を立て、研究計画書を作成し、測定や計測、調査を進め、データ収集及び解析を行い、仮説の検証ができるようになる。一連の研究過程で得られた結果から科学的根拠（EBM）に基づいた研究報告や研究発表を通して理学療法における研究の意義を学修する。	共同
	理学療法管理学	理学療法管理学	理学療法士として仕事をするにあたり、対象者のリスクを把握することや危機管理能力が不可欠である。本科目では、医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、組織運営や理学療法業務のマネジメントに必要な能力を身につけるとともに、職業倫理の知識獲得を目指す。また、臨床だけでなく、理学療法教育・研究・地域の領域における管理・マネジメント全般についても学修する。	
理学療法評価学	理学療法評価学	理学療法評価学	適切な理学療法が提供されるためには、正確な評価方法に関する知識と技術を身につける必要がある。本科目では、理学療法評価における検査・測定に関する知識を修得し、理学療法評価の目的と意義及び評価方法と評価の流れについて学修する。	
	基礎理学療法評価学実習	基礎理学療法評価学実習	（概要）本科目では、臨床現場で求められる、安全かつ正確で迅速な検査・測定について、実習を通して学修する。理学療法の臨床において最も一般的である関節可動域検査と、徒手筋力検査の目的や意義、方法に関する基礎知識を修得するとともに、その基本技術を身につけ、判断解釈についても学ぶ。 （オムニバス方式/全20回） （12 坂上 尚穂、14 小関 友記/10回）（共同） 四肢長及び四肢周径の計測、関節可動域検査についての実習を担当する。 （15 伊藤 大亮、④ 佐々木 広人/10回）（共同） 徒手筋力検査についての実習を担当する。	オムニバス方式・共同
	運動器障害理学療法評価学実習	運動器障害理学療法評価学実習	（概要）本科目では、主として整形外科疾患の病態を把握するための検査手技や運動器障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、運動器障害の病態、病態を捉えるための画像所見及び評価、リスク管理の把握、運動器障害における理学療法評価について学修する。 （オムニバス方式/全20回） ① 大友 篤、15 伊藤 大亮/10回）（共同） 全身の運動器系の検査についての実習を担当する。 ① 大友 篤、④ 佐々木 広人/5回）（共同） 静的及び動的のアライメント評価についての実習を担当する。また、医用画像を含む症例検討を担当する。 ④ 佐々木 広人/5回） 疼痛、筋力、持久力及び姿勢の評価についての実習を担当する。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法評価学		
	神経障害理学療法評価学実習	本科目では、主として神経疾患の病態を把握するための検査手技や神経障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、神経障害の病態、病態を捉えるための画像所見、及び評価、リスク管理の把握、神経障害における理学療法評価について学修する。	共同
	内部障害理学療法評価学演習	本科目では、主として内部疾患の病態を把握するための検査手技や内部障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、内部障害の病態、病態を捉えるための画像所見、及び評価、リスク管理の把握、内部障害における代表疾患の特性と病態を理解した上で、各疾患や病態に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定の理学療法評価について学修する。	共同
	理学療法評価学総合実習	（概要）本科目では、各疾患における運動器障害、神経障害、内部障害の理学療法評価について、基本的な知識や技術及び検査結果の解釈など一連の理学療法評価について総合的に実践する。OSCE（客観的臨床能力試験）を通して、コミュニケーションスキル、医療従事者としての心構えや情意面（態度・習慣などの人間性）などを身につけることを目的とする。 （オムニバス方式/全20回） ① 大友 篤、④ 佐々木 広人/7回（共同） 関節可動域測定、筋力測定、形態測定や整形外科疾患別検査、医用画像を含む運動器障害の模擬症例に対する一連の検査・測定について実習を担当する。 ⑭ 小関 友記、⑰ 森永 雄/8回（共同） 感覚・反射検査、脳卒中の麻痺側運動機能・運動失調の評価、バランス検査、医用画像を含む神経障害の模擬症例に対する一連の検査・測定について実習を担当する。 ⑮ 伊藤 大亮、⑳ 荒牧 隼浩/4回（共同） リスク管理や療法士面接、脈拍・血圧・呼吸パターン測定・評価について実習を担当する。 ④ 佐々木 広人/1回 客観的臨床能力試験（OSCE）の概要を担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
	理学療法治療学		
	運動器障害理学療法学	本科目では、運動器系疾患に対する理学療法を学修する。様々な運動器疾患の病態、画像所見の把握、リスク管理の把握、運動器疾患に関する各種検査や測定、整形外科疾患検査など、疾患の特異的な検査も含めた基本的技術を学ぶ。得られた評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点の抽出を行う一連の理学療法評価を理解し、治療プログラムの立案及びその治療技術について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法治療学	<p>（概要）本科目では、様々な運動器疾患における病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから骨関節障害の理学療法評価過程を理解した上で、治療プログラムを立案し、治療技術を演習を通して実践する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、各疾患における理学療法の過程について理解できるようになることを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式/全30回）</p> <p>① 原 和彦、① 大友 篤、④ 佐々木 広人/1回）（共同） 運動器疾患の症例検討（治療プログラムの実践）を担当する。</p> <p>① 原 和彦、④ 佐々木 広人/1回）（共同） 運動器障害に対する基本的理学療法評価について担当する。</p> <p>① 大友 篤、④ 佐々木 広人/19回）（共同） 上肢・下肢の骨折、変形性膝関節症、変形性股関節症、膝靭帯損傷・半月板損傷に対する理学療法評価とその治療について、演習を担当する。また、運動器疾患の症例検討（情報収集から理学療法評価および治療プログラム立案）を担当する。</p> <p>⑫ 坂上 尚穂、④ 佐々木 広人/9回）（共同） 関節可動域運動、ストレッチング、筋力増強運動、頸部・腰部・末梢神経損傷・関節リウマチに対する評価と治療について、担当する。</p>	オムニバス方式・共同
	神経障害理学療法学	<p>（概要）中枢神経障害は多くの機能形態障害が重複した障害像を呈し、全体的な障害像をイメージすることが難しい。本科目では、主として脳卒中の障害像を学び、その回復過程（急性期・回復期・生活期）に沿って脳卒中に対する理学療法の考え方や、具体的なアプローチについて学修する。はじめに、脳卒中の病態とリスク管理、脳画像所見、理学療法評価、理学療法プログラム、動作分析やADL評価等を、次に、脳卒中の急性期・回復期・維持期（生活期）の理学療法等を、また、外傷性脳損傷に対する理学療法についても学修する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>① 網本 和/5回） 神経障害理学療法学総論、脳血管障害の定義・病態・障害像について講義する。</p> <p>② 大和田 宏美/10回） 脳血管障害におけるリスク管理と理学療法評価及び理学療法の実際、頭部外傷の理学療法について講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法治療学	<p>（概要）本科目では、脳卒中の障害像を理解し、脳卒中の病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから脳卒中の理学療法評価過程を理解した上で、治療プログラムを立案し、治療技術を修得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、脳卒中の理学療法について理解できるようになること目的とする。</p> <p>（オムニバス方式/全30回） (1 網本 和/5回) 中枢神経系に対する障害像、脳画像所見と理学療法評価、運動学習理論に基づいた理学療法、脳卒中患者の理学療法予後予測と展望について担当する。 (1 網本 和、② 大和田 宏美/2回)（共同） 背臥位・座位・立位姿勢、立ち上がり動作、歩行動作の評価について担当する。 (1 網本 和、19 森永 雄/6回)（共同） 脳卒中患者の基本動作・寝返り動作・起き上がり動作・立ち上がり動作・歩行動作の動作分析について担当する。 (② 大和田 宏美、14 小関 友記/9回)（共同） 認知神経リハビリテーション、急性期・回復期・生活期における脳血管障害の症例検討を担当する。 (② 大和田 宏美、19 森永 雄/8回)（共同） 急性期のポジショニングやベッド上での理学療法、基本動作・歩行動作・日常生活活動動作練習及び生活環境調整について、担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	神経障害理学療法学演習	<p>本科目では、意識、言語、認知、行為、知能などの高次脳機能障害に焦点をあて、高次脳機能障害の主要な症候に関する評価の実際と基本的治療理論とその応用について学修する。主に、失行症、Pusher現象、半側空間無視、前頭葉機能障害や遂行機能障害などの基礎的な知識について学修する。</p>	
	高次脳機能障害学	<p>（概要）本科目では、内部障害疾患における病態把握とリスク管理、合併症、理学療法評価、理学療法プログラム、各疾患特有のADL評価について理解する。内部障害学総論、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の理学療法などについて学修する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (5 伊橋 光二/6回) 内部障害学総論、呼吸器障害と理学療法について担当する。 (12 坂上 尚穂/2回) 糖尿病と理学療法について担当する。 (15 伊藤 大亮/2回) 腎臓障害と理学療法について担当する。 (⑧ 高田 拓明/5回) 循環器障害と理学療法について担当する。</p>	オムニバス方式
	内部障害理学療法学		

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 理学療法治療学	内部障害理学療法学演習	<p>（概要）本科目では、内部障害における代表疾患の特性と病態を理解し、内部障害に起因する機能・運動障害の病態、その回復過程と予後に関する知識をもとに、リスク管理、画像所見、理学療法評価、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の運動療法、ADL指導、生活環境支援のための理論と技術を修得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、内部障害の理学療法について理解できるようになること目的とする。</p> <p>（オムニバス方式/全30回） （5 伊橋 光二/1回） 内部障害に対する理学療法総論について担当する。 （5 伊橋 光二、21 荒牧 隼浩/14回）（共同） 呼吸器障害に対する理学療法、吸引と呼吸ケア、症例検討（呼吸器疾患）について担当する。 （15 伊藤 大亮、21 荒牧 隼浩/5回）（共同） 簡易運動耐容能検査及び心肺運動負荷試験について担当する。 （15 伊藤 大亮、8 高田 拓明/10回）（共同） 心電図、循環器障害に対する理学療法及び症例検討、代謝障害に対する理学療法について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	神経筋疾患理学療法学	<p>（概要）本科目では、多岐にわたる障害像を有する神経筋疾患の理学療法について学ぶ。神経難病の特性をふまえた上で、それぞれの病態、主要症状などを理解し、予後と経過、各疾患の進行にあわせた理学療法について学修する。主に、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、多発性神経炎、脊髄損傷に対する理学療法などについて学修する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （1 網本 和/7回） 多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、シャルコーマリートゥース病、多発性筋炎、皮膚筋炎、後縦靭帯骨化症等の病態と理学療法について講義する。 （2 大和田 宏美/8回） パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、脊髄損傷の病態と理学療法について講義する。</p>	オムニバス方式
	小児理学療法学	<p>本科目では、発達障害の特徴を理解し、評価の考え方や進め方、原始反射や正常姿勢反応と正常発達との関係について理解を深め、特に脳性麻痺の特徴を理解し、治療方法や指導方法などの実践力を身につける。主に、脳性麻痺、二分脊椎や水頭症、小児の神経・筋疾患、小児の整形外科疾患、重症心身障害児・者などの理学療法を行うにあたりそれぞれ必要な検査や評価、治療や指導、リスク管理について学修する。</p>	
	物理療法学	<p>（概要）理学療法において物理療法は、運動療法と同様に有効な治療法の一つである。本科目では、物理療法の基本知識である物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌について学修する。物理療法の各機器と生理学的作用を理解することで、各疾患や障害に適した物理療法を選択し、正しく使用するための方法とその効果判定についても学修する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （1 網本 和/10回） 物理療法と温熱療法の概要、光線療法、寒冷療法、水治療法等について講義する。また、骨折や関節障害、スポーツ外傷などにおける物理療法についても講義する。 （5 伊橋 光二/5回） 電磁波療法、超音波療法、電気刺激療法について講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	理学療法治療学	（概要）本科目は、物理療法学で学修した知識をもとに、実際の物理療法機器の使用方法や治療の実際について学修する。また、症例基盤型学習（CBL：Case Based Learning）を実施し、実際の患者に対して実施することを想定した演習を行うことで、使用方法、注意事項を含め実践的な技術を身につけることを目指す。 （オムニバス方式/全15回） （1 網本 和/1回） 物理療法を実施する際の注意点や適応と禁忌等について担当する。 （5 伊橋 光二/1回） 電気刺激療法（NMES・FES）について担当する。 （① 大友 篤/7回） 温熱療法、電磁波療法、電気刺激療法等について担当する。また、骨折やOAに対する物理療法の実際についても担当する。 （14 小関 友記/6回） 光線療法、寒冷療法、水治療法等について担当する。また、LBPやスポーツ外傷に対する物理療法の実際についても担当する。	オムニバス方式	
		義肢装具学	本科目は、身体各部位ごとの代表的義肢・装具の名称及び機能（目的）を理解し、各疾患と機能・構造、障害との関連性を理解することにより、疾患や障害に適した義肢・装具を選択し、また義肢・装具の適合判定が行えることを目的とする。また、義肢・装具の変遷、近年の適応、義肢・装具の構造や機能、評価法を学び義肢・装具を使ったリハビリテーションや義肢を利用する切断患者のリハビリテーションについても学修する。	
		義肢装具学演習	本科目は、義肢装具学で学修した知識をもとに、義肢・装具の適合判定及び装具療法、義肢・装具を使用した理学療法を行うために必要な知識と技術を、実際の義肢装具を用いた演習で修得する。また、切断端管理法についての基本的な知識を修得し、切断患者の断端管理や評価方法及び理学療法の実際についても学修する。	
		日常生活活動学	本科目では、日常生活活動の概念と範囲を理解し、正常な日常生活活動を理解した上で、動作の獲得方法や介助・支援の方法について学ぶ。本講義では、FIM（Functional Independence Measure）やBI（Barthel Index）などの標準化されたADL評価や個々の評価、介助法やポジショニング、ADLを支援する機器としての福祉用具、歩行補助具、車いすの構造と周辺用具（クッション、移乗補助器具）などの基本的な知識について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法治療学		
	日常生活活動学実習	<p>(概要) ADLはリハビリテーション専門職にとって最も重要な概念であり、実践技術である。本科目は、日常生活活動学で学んだ知識を活かし、日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解し、より実践的な疾患別のADL介助やADL指導方法について学修する。寝返り動作や起き上がり動作などの基本動作を中心とした各動作の介助、指導方法について実践する。また、歩行補助具である杖・松葉杖・車いすにおける選び方や使用方法の実際を実践する。</p> <p>(オムニバス方式/20回) (6 金谷 さとみ/1回) 日常生活活動学の必要性について担当する。 (12 坂上 尚穂/2回) 神経筋疾患、神経難病におけるADL指導の実際について担当する。 (14 小関 友記/8回) 脳血管疾患におけるADL指導の実際、脊髄損傷（四肢麻痺と対麻痺）におけるADL指導について担当する。また、症例検討（整形外科疾患、脳血管疾患）について担当する。 (14 小関 友記、19 森永 雄/2回)（共同） 歩行・階段動作の基本的介助・誘導について担当する。 (19 森永 雄/4回) 基本動作の基本的介助・誘導について担当する。 (5 鈴木 裕治/1回) 関節リウマチにおけるADL指導の実際について担当する。 (21 荒牧 隼浩/2回) 呼吸器・循環器疾患、人工股関節全置換術後におけるADL指導の実際について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	予防理学療法学	<p>(概要) 世界有数の長寿国となった我が国において、障害や後遺症に対する治療だけではなく、予防的知見にたった理学療法の需要が高まっている。予防理学療法学は、国民がいつまでも社会参加し続けられるために、障害を引き起こす恐れのある疾病や老年症候群の発症予防・再発予防を含む身体活動について研究する学問である。本科目は、神経疾患、内部疾患、スポーツ疾患、ウィメンズヘルス、介護予防、産業分野などの様々な内容について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (6 金谷 さとみ /8回) 予防理学療法の概要や制度、疾病予防と健康管理、公衆衛生行政全般と地域保健の観点からの予防理学療法、健康増進の観点からの予防理学療法、様々な疾病の予防（感染症予防、循環器系疾患、生活習慣病の予防、がんの予防、腎疾患の予防、廃用症候群の予防など）について講義する。 (6 佐藤 理恵/1回) ウィメンズヘルスの予防理学療法について講義する。 (7 真溪 淳子/1回) 労働災害の予防理学療法について講義する。 (9 三好 圭/5回) 介護予防における予防理学療法、フレイルとサルコペニアの概念と予防理学療法、ロコモティブシンドロームの予防理学療法、認知症の予防理学療法について講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	理学療法治療学	<p>（概要）本科目では、スポーツ理学療法におけるリハビリテーションについて学修する。スポーツ外傷・障害について、病態、発生メカニズム、リスクファクターや医学的治療を理解した上で、アセスメントとしてクリニカルテストの方法や結果の解釈、エクササイズプログラム（コンディショニング、ストレングスニング、ストレッチング）などを学修する。また、現場においてアスレティックリハビリテーションで求められる基本的技能であるテーピングや足底板の基礎理論と実際を学修する。</p> <p>（オムニバス方式/30回） (4 佐野 徳久/10回)</p> <p>スポーツ理学療法総論、スポーツ現場での救急処置、スポーツ外傷とスポーツ障害、四肢のスポーツ障害と外傷、頭頸部と体幹のスポーツ障害と外傷について担当する。</p> <p>(4 佐々木 広人、③ 見供 翔/14回) (共同)</p> <p>スポーツとインソール、各関節のテーピング方法、パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング、ストレッチング、スポーツトレーニング理論およびトレーニング方法について担当する。また、スポーツ理学療法の総復習を担当する。</p> <p>(4 佐々木 広人/6回)</p> <p>スポーツ現場での理学療法士の活動、ウォーミングアップとクールダウン、競技種目特性と段階的リハビリテーション、スポーツ動作評価、スポーツ外傷・障害の予防について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）	
		疼痛理学療法	<p>痛みとは、「組織損傷が実際に起こった時あるいは起こりそうな時に付随する不快な感覚及び情動体験、あるいはそれに似た不快な感覚及び情動体験」（2020年：IASP（国際疼痛学会）公式日本語訳より）と定義されている。患者個々の痛みとその病態を理解した上で、痛みに伴う症状を和らげ、日常生活の質を維持するためには、多面的（器質的・身体的・心理的）な評価と集学的な介入が重要である。疼痛理学療法では、主に慢性疼痛について、その病態や分類、評価、理学療法の介入方法を学修する。</p>	
		先端理学療法	<p>近年、リハビリテーション領域では、再生医療やロボティクス、ICTの活用などの技術的進歩が目覚ましい。また、従来の臨床実践（評価・治療）についても、様々なエビデンスが確立されている。本科目では、様々な領域における福祉工学的支援やロボティクス技術の導入、障害のレベルに合わせた生活支援等について概観する。また、臓器移植、緩和ケアや再生医療におけるリハビリテーションや今後の最先端のリハビリテーション技術と展望について学修する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	本科目では、実習施設において、実際の理学療法を体験することを目的とする。さらに、理学療法士の活動見学や理学療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方などの医療面接スキルを身につける。また、理学療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などリハビリテーションチームとは何かを体験する。	共同
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	本科目では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、理学療法検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるようになることを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」及び「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における基本的な理学療法評価技術の修得を図る。	共同
		臨床実習Ⅲ（総合実習）	本科目では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、対象者の他部門からの情報収集、検査・測定、検査・測定結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定、治療プログラム立案、理学療法の実施、再評価までの一連の理学療法を実践することを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」及び「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における実践を通して、一連の評価及び治療も含めた基本的な理学療法技術の修得を図る。	共同
		臨床実習Ⅳ（総合実習）	本科目では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、他部門からの情報収集、検査・測定、検査・測定結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定、治療プログラム立案、理学療法の実施、再評価、治療プログラムの修正までの一連の理学療法を実践することを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」及び「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における実践を通して、評価及び治療も含めた基本的な理学療法技術の修得を図る。臨床実習を通して、臨床現場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持って行動することができるようになる。	共同
		地域リハビリテーション実習	本科目では、医療保険制度や介護保険制度を理解し、理学療法士の役割と関連専門職の役割について理解する。また、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなどを利用している対象者の生活環境やその支援方法などについて学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域理学療法学	<p>地域理学療法学とは、動作や活動への多面的な働きかけにより人々が地域でのくらしを主体的につくりあげられるよう探究する学問である。地域包括ケアシステムが展開されている現在、入所施設や通所施設、訪問における理学療法の知識を得るだけでなく、介護予防、健康増進、さらには災害時支援など医療機関以外でも理学療法が活用されていることを学び、理学療法の領域の広がりを理解する。そして、制度・分野ごとの「縦割り」や、「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が地域をともに創っていく社会「地域共生社会」について学修する。</p>	
	地域理学療法学演習	<p>（概要）本科目では、地域理学療法学で学修した知識をもとに、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。事例を通して、高齢者・障害者・障害児を含むあらゆる地域住民に対する具体的な理学療法士の支援について理解し、相談支援、訪問理学療法・通所サービスなど地域における理学療法士としての役割と実践について学修する。 （オムニバス方式/15回） （6 金谷 さとみ/3回） 地域理学療法学の理念と背景、施設のリスクマネジメント、病院・施設外のリスクマネジメントについて担当する。 （19 森永 雄、21 荒牧 隼浩/12回）（共同） 行政における理学療法士の役割、学校保健及び特別支援教育、スポーツ活動支援、介護保険下の入所・通所サービス、訪問における理学療法、健康増進・介護予防、産業理学療法、事例検討について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	生活環境論	<p>人が健やかで円滑な生活を営むには、「心身機能・身体構造」だけでなく、環境要因も重要である。環境要因は、本人をとりまく家族、親族や友人などの人的環境、住居の構造や道路状況などの物理的環境、経済状況や法的制度などの社会的環境が相互に関与している。本科目では、住宅改修、車椅子や日常生活用具等の福祉用具などについての知識を深め、物理的環境を中心に、理学療法士として必要な知識を学修する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別演習	<p>(概要) 本科目は、3年間の学修総括として理学療法に関する知識と技術を整理し、これまで学修した基礎医学・臨床医学といった専門基礎科目について統合的な能力を身につけることを目的とする。また、理学療法専門科目の知識と技術を定着させるため、グループワークなどを通じて共同学習を行い、最終学年の臨床実習に向けての足掛かりとする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 網本 和/2回)</p> <p>神経障害理学療法領域（脳卒中の理学療法、高次脳機能障害の理学療法）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(1) 原 和彦/2回)</p> <p>運動障害理学療法領域（骨関節障害の理学療法、外傷などの理学療法）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(4 佐野 徳久/2回)</p> <p>骨関節障害と臨床医学（変形性関節症、脊椎・肩関節疾患）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(5 伊橋 光二/1回)</p> <p>内部障害理学療法領域（呼吸器系）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(9 平山 和美/4回目)</p> <p>基礎医学領域（神経系、感覚系）と臨床医学系（中枢神経障害と臨床医学、末梢神経・筋の障害と臨床医学）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(2) 大和田 宏美/4回)</p> <p>基礎医学領域（骨学・筋学、運動学）、内部障害理学療法領域（循環器系、代謝系）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p>	
		理学療法学総合演習 I	<p>(概要) 本科目は、理学療法士として必要な知識と技術を整理し、理学療法士としての総合的な能力を高めることを目的とする。基礎医学・臨床医学分野と理学療法学について、リハビリテーション専門職としての観点でさらに理解を深め、理学療法士として現場で活躍しうる能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 網本 和/1回)</p> <p>中枢神経障害理学療法学（高次脳障害）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(1) 原 和彦/3回)</p> <p>骨関節障害理学療法学（外傷性骨関節障害、退行性骨関節障害）、義肢装具学について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(4 佐野 徳久 1回)</p> <p>理学療法評価学（整形外科テスト）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(5 伊橋 光二/2回)</p> <p>内部障害理学療法学（呼吸器障害）、物理療法学について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(6 金谷 さとみ/1回)</p> <p>理学療法概論、地域理学療法学について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(9 平山 和美/1回)</p> <p>理学療法評価学（神経学的検査）について講義及び演習形式の授業を実施する。</p> <p>(2) 大和田 宏美/6回)</p> <p>中枢神経障害理学療法学（脳血管障害、神経筋疾患、脊髄損傷）、内部障害理学療法学（循環器障害、代謝障害）、小児理学療法学について講義及び演習形式の授業を実施する。</p>
		理学療法学総合演習 II	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	言語・情報系	日本語表現法	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。
		英語Ⅰ	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅰでは、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。
		英語Ⅱ	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅱでは、英語Ⅰで学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。
		英語Ⅲ	現代の日本において、様々な国籍の人が生活する中、医療現場においても英語を使う機会は格段に増え、また、将来研究を続けていく上では必要不可欠な言語である。 英語Ⅲでは、英語Ⅰ・英語Ⅱで学んだ内容を基に、臨床や研究に活かせる医療英語を学修する。さらに、専門分野における英語論文の構成や、論の進め方に触れ、国際的な視点から学術活動への興味関心を高めていく。
		情報処理Ⅰ	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理Ⅰでは、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活で必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。
		情報処理Ⅱ	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。
	ICT活用技術	情報通信技術（ICT）の発展により、将来、医療従事者となる学生にとって、ICTを活用する基礎的能力を身につけていることが重要となる。 ICT活用技術では、ICTの特徴的な内容について理解を深め、医療福祉分野においてもICTの進化に対応し、活用できる技術を、具体的な事例を通して学修する。さらに、ICTを活用したグループワーク等を行い、ICT活用技術の修得を目指す。	
人文科学系	哲学	哲学とは、真理を探究し、物事の本質を追究する学問である。代表的な哲学者等の思想を学び、深く自身の考えを巡らせ、人間とは何かを思索する。哲学の歴史や流れを学びながら、人間は何かのために生きるのか、幸福とは何か、自由とは何か、愛とは何か、正義とは何か等の普遍的な問いについて深慮する。個の内面を徹底的に洞察するという哲学的な思考法を学び、深く考えることの価値を知ること、自身の人生をより深みのあるものにしていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目	人文科学系	生命倫理学	医療は生物、心理、社会的な包括的アプローチが求められる。医学の進歩発展過程や学際的に問われる倫理（生殖技術・移植医療・遺伝子技術）、医療現場で問われている倫理的問題（人工妊娠中絶・安楽死・尊厳死）等を具体的な課題を通して学ぶ。医療従事者として必要とされる、相手を尊重し敬意を持って接する姿勢や、人間の尊厳についての考えを深め、倫理的態度を身につけることを目指す。	
		心理学	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情・動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。	
		教育心理学	人間は、成人するまでに受ける教育から大きな影響を受ける。乳児期から青年期までの成長過程における心や知能の発達、人格形成等を、教育学的観点から考察する。 人間の発達に関する基礎的な知識を身につけ、記憶・動機づけ等の学習について学ぶ。また、個人の行動傾向を指す総合的な概念であるパーソナリティについても学修する。教育過程における様々な現象を心理学的に明らかなものとし、効果的な教育方法の検討をする。	
		宗教と民族	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教）を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。	
		人間関係論	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者（対象者）によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。	
社会科学系	法学入門	社会生活上で必要な知識として、「日本国憲法」「民法」「刑法」を取り上げ、「法」の基礎を学修する。とりわけ最も身近な法律のひとつである「民法」を中心に学び、日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げ、法の観点から問題点、解決方法、回避方法を検討する。具体的な事例を基に、法と照らし合わせて学修することで、学修者自身が適切な選択・判断ができることを目指す。		
	日本国憲法	日本国憲法の概要、基本理念・原理について学ぶ。国民の権利及び義務、幸福追求権、平和主義、生存権の内容に触れ、日常生活との憲法との関わりを学ぶ。また、身近で起こりえる問題について、日本国憲法を基に解釈し、自ら活用できることを目指す。医療従事者、教育者として必要な考え方も日本国憲法から学び、修得する。		
	経済と政策	一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。		

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目	社会科学系	教育学概論	教育に関する基本的な理念・思考、教育方法を学び、人の成長過程における教育の重要性を理解する。自身への教育として、成人学習理論、生涯学習等の基本的な知識を学修し、他者への教育として人材育成を軸に、教育計画（目標）の設定方法や教育活動（内容）を学修する。この科目は自身の教育経験も踏まえて、教育とは何かを改めて考える機会とする。	
		社会学	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。	
		社会保障論	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療をとりまく環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。	
	自然科学系	物理学	人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。	
		生物学	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。	
		自然環境と災害	自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起こし、災害となって新たな問題を引き起こす。 この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生のメカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。	
		統計学入門	統計学の入門として、情報化社会の中で公表されている数字・データを正しく読み解き、理解する基礎的知識を身につける。統計学を学ぶ上で必要な、分布、分散、標準偏差、確率等を利用して、身近な数字・データを基に統計の基礎を学ぶ。	
		健康スポーツ I	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツ I では、健康を維持するために必要な食生活と運動（スポーツ）の重要性を学ぶ。生活習慣病と運動・食生活の関係、疾病と健康状態、体力に応じた運動方法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学系	健康スポーツⅡ 健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツⅡでは、実技を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法を学ぶ。また、実際に体験することにより、運動（スポーツ）の意義・目的を理解し、教育者・指導者としての能力の向上を目指す。	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ 解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本科目では、人体の構造と機能に係る基礎知識となる運動器系の骨・筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経を中心に学修する。	
		解剖学Ⅱ 本科目では、特に生命維持に必須の機能である植物性機能と、感覚と神経機能及び運動に関連する動物性機能について学ぶ。植物性機能では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の位置関係や構造について学修する。動物性機能では、中枢神経系、末梢神経系及び各種感覚器系について学修する。	
		解剖学演習 （概要）本科目では、解剖学Ⅰで学んだ骨及び筋の名称を実際の骨模型及び筋模型を用いて立体的な位置関係を確認する。また、骨や筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について、人体でイメージできるようになるよう学修する。 （オムニバス方式/全15回） ② 大和田 宏美、① 大友 篤/10回）（共同） 四肢の骨及び筋について担当する。 ② 大和田 宏美、21 荒牧 隼浩/5回）（共同） 骨や筋の位置関係、体幹の骨及び筋について担当する。	オムニバス方式・共同
		解剖学実習 （概要）理学療法及び作業療法における検査・測定及び治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。本科目では、理学療法及び作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。また、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、部位ごとに触診する技術を学修する。 （オムニバス方式/全20回） ⑤ 伊橋 光二、② 大和田 宏美、⑤ 鈴木 裕治/4回）（共同） 人体解剖実習を担当する。 ⑤ 伊橋 光二、⑤ 鈴木 裕治/16回）（共同） 骨・関節の触診及び軟部組織の触診について担当する。上肢、体幹、下肢の体表解剖について担当する。	オムニバス方式・共同
		生理学Ⅰ 生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素（細胞・組織・器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。生理学Ⅰでは、主に動物性機能について学ぶ。本科目では、中枢神経系、末梢神経系、骨格筋系、感覚器系の構造（形態）機能について学修する。人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ（メカニズム）についての基礎的な知識を身につける。	
		生理学Ⅱ 生理学Ⅱでは、主に植物性機能について学ぶ。本科目では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の機能について学修する。人体を構成するそれぞれの臓器がどのようにつながり、どのような機能を担っているのかを系統的に学ぶことにより、人体の生理機能の全体像を理解するために必要な基礎的な知識を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学実習	本科目では、生理学Ⅰ・生理学Ⅱで学修した内容について、実際の測定・実験を通し、身体の各機能についてさらに理解を深め、その生理学的メカニズムについて学修する。主に反射、筋電図、感覚検査、体組成計測、血圧測定、心電図、肺機能測定、尿組成、神経伝導速度、重心動揺計による測定などを実施する。	共同
		運動学総論	運動学は、身体運動の仕組みについて学ぶ理学療法及び作業療法の基礎となる重要な学問である。人間の運動の科学と定義される運動学は、医学、物理学、心理学、社会学など多くの学問分野を統合したものの上に成り立つ応用学問であると言える。本科目では、力学の基礎や筋骨格系の構造と機能や関節運動、姿勢制御や歩行周期、運動の中樞神経機構、運動学習理論など運動学の基礎的な知識を身につける。	
		運動学演習Ⅰ	運動学演習Ⅰでは、主に上肢と体幹の運動学について学ぶ。上肢と体幹の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靭帯及び筋の作用について学修する。解剖学・生理学の知識に基づき科学的にヒトの活動制御の仕組みを理解し、分析する力を身につける。また、分析により問題点を把握できるようになる。	共同
		運動学演習Ⅱ	（概要）運動学演習Ⅱでは、主に下肢の運動学について学ぶ。下肢の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靭帯及び筋の作用や実際の身体運動における役割・機能について学修する。また、姿勢・歩行における正常・異常、身体運動におけるエネルギー代謝などに関する基礎的な知識を身につける。 （オムニバス方式/全15回） 〔Ⅰ〕 原 和彦、① 大友 篤、12 坂上 尚穂/1回）（共同） 下肢の関節構造の概要について、骨模型を用いながら演習形式の授業を実施する。 〔①〕 大友 篤、12 坂上 尚穂/14回）（共同） 主に、下肢の運動と関節構造について、骨模型と触診を用いて演習形式の授業を実施する。	オムニバス方式・共同
		運動学実習	本科目では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、運動学において学修した知識を応用する。主に、姿勢、重心、歩行周期、歩行距離の測定や歩行時の筋活動やエネルギー消費などについて測定し、各実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。	共同
		機能解剖学実習	理学療法及び作業療法では運動器疾患を評価・治療する機会も多く、運動器に関する解剖学として骨・関節・筋・靭帯等の構造を理解しておく必要がある。また、運動学では筋作用による関節運動や、靭帯による関節運動の制動を理解しておく必要がある。本科目では、解剖学や運動学から修得した知識をもとに、触診を通して身体構造と身体運動の知識を結びつけ、正常な関節構成体の構造と機能について学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床運動学 （概要）整形外科、神経内科、脳神経外科などの臨床医学分野のリハビリテーションを行う場合に、神経系、運動器系の疾患に由来する運動障害をきたした症例を経験することが多い。運動学は人間の運動の科学として位置づけられ、人間の正常運動に関するものは基礎運動学として扱われる。本科目では、基礎運動学の知識を身につけた上で、様々な疾患によって生ずる運動機能障害、正常運動からの逸脱、疾患特有の姿勢や動作と病態・障害像及び疾患別の異常歩行などについて学修する。 （オムニバス方式/全15回） （1 網本 和/8回） 中枢神経疾患の運動機能障害について講義する。特に片麻痺の基本動作の分析や異常歩行などについて講義する。 （① 原 和彦/7回） 臨床運動学の総論と動作分析の基礎について講義する。特に下肢の関節障害に対する理学療法の考え方について講義する。	オムニバス方式
		人間発達学 本科目では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の発達段階の視点で学修する。それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。	
疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学 薬理学とは薬物の作用メカニズムを学ぶ学問である。本科目では、薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について、作用機序、体にもたらす効果、副作用が起こるメカニズム等を学修し、疾病の治療や予防において使用される薬物についての知識を身につける。		
	病理学 病理学とは、「やまい（病）」の「ことわり（理）」を学ぶ学問である。種々の疾患（腫瘍、循環器系疾患、免疫疾患など）によって、組織・細胞は様々な適応（環境変化に対する適応）をしているが、本科目ではその意味と疾患の関わりについて学修する。また、内因・外因を含む疾患や障害の病因論、感染症や腫瘍の病理的变化などについても学修する。		
	小児科学 本科目では、小児疾患の原因・病態と、受胎から思春期に至る身体・精神・言語の成長発達段階の理解を通し、小児に認められる代表的な症候とその原因疾患について学修する。特に、小児における疾病と障害、発達過程や回復過程を学ぶ中で、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を修得する。		
	老年学 老年学とは老年者の疾患などを研究対象とする老年医学、老年者の社会的問題を研究対象とする老年社会学、老化の機序などを研究対象とする基礎老化学を3つの柱とする学問である。本科目では、老化に伴って生じる内臓諸器官、運動器、神経系、感覚器、精神活動の変化、その他の加齢変化について学修する。また、高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、障害高齢者を受け入れる療養上の問題点についても学修する。		

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学	内科学では、主に身体の臓器（内臓）を対象とし、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候、症状、原因、特徴、治療などについて学ぶ。循環器疾患、内分泌・代謝性疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝疾患、血液疾患などの様々な疾患についての理解を深め、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。	
		神経学	本科目では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患を中心に、その病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能、様々な障害やその予後について学修する。特に、脳血管障害、変性疾患や神経筋疾患など神経に障害をきたす疾患についての理解を深め、病理的な知識だけでなく、画像所見も含めた評価や検査及び治療法について学修し、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。	
		整形外科学	運動器には、脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靭帯、筋、血管、皮下組織、脊髄及び末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態には、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害などの病態と、先天性障害や変形、骨・関節の外傷などの運動器に特徴的な病態がある。本科目では、運動器疾患に関する基礎的な知識を身につけ、運動器疾患の診断、治療について学修する。	
		精神医学	精神医学は、精神機能あるいは精神活動の障害（精神障害）についての医学である。精神機能あるいは精神活動は、一方では脳の高次機能、他方では性格や状況などと関連している。また、現代の疾病構造を理解する上でも、精神疾患の理解は重要である。精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類、治療などについて学び、その障害を持つ対象者の理解に必要な基本的事項や、臨床で必要とされる精神医学の知識を修得する。	
		精神医学演習	精神医学で学修した内容をもとに、作業療法士の対象疾患について、疾患別の病因、病態、診断、治療などを系統的に学修する。精神障害は行為を制限し、生活の質（QOL）の低下をもたらすことから、疾病の診断・医学的治療や作業療法のみならず、生活支援も含む内容を学修する。	
		臨床心理学	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人を対象とする実践的な学問である。心理学の知識と技術を用いて、心理的苦悩を軽減するために心理援助を行い、問題の解決や改善を目指す。本科目では、臨床心理学の基礎的な理解を目的に、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理アセスメントや代表的理論、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士及び作業療法士として対象者と関わる中で、対象者の心理を理解し、心理的適応援助につながる基礎的な知識を学修する。	
		栄養学	（概要）栄養は、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。栄養過多は高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの生活習慣病を惹起する可能性がある。一方で、栄養不足は生命の恒常性を保持することが困難になる。本科目では、栄養に関する基礎的な知識を身につけ、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学修する。 （オムニバス方式/全8回） （27 岩間 正典/3回） 栄養に関する基礎知識について講義する。 （57 高泉 佳苗/5回） 理学療法及び作業療法の実施に必要な栄養管理について講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進	救急救命学	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理などをいう。本科目では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。	
		公衆衛生学	公衆衛生とは地域社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延ばし、健康と活力を増進するための科学と技術と定義され、地域社会の組織的な努力に重点がおかれている学問である。本科目では、我が国における各種疾病統計を踏まえ、実際に地域社会で展開されている公衆衛生活動及びその基盤となる保健・医療・福祉制度の概要について学修する。	
		言語聴覚療法概論	リハビリテーションを行う上で、様々な障害を抱えた対象者に対して、多数の医療関連職種が連携し、対象者の障害にあわせた支援を提供している。特に、理学療法士及び作業療法士が、言語療法について学修する意義は大きい。言語聴覚障害では、コミュニケーションに必要な言語や聴覚の機能が低下し、当事者が自分の問題を訴えることが難しいことが多い。本科目では、言語聴覚障害や、障害に付随して生じる問題の理解と専門的な対応について学ぶ。また、全ての障害領域に共通した診療理念、評価や治療を含む、臨床の進め方、その他の医療関連職種との連携について学修する。	
		臨床検査・画像診断学	本科目では、各種画像診断機器を用いた単純X線検査、CT検査、MRI検査、血管造影検査、核医学検査、超音波検査など各種検査画像の特徴と読影方法について学ぶ。理学療法及び作業療法の対象となる代表的疾患の画像所見について理解し、疾患の症状と画像から得られる情報により病巣部位の同定と症状の因果関係について理解する。画像所見から効果的な治療介入を行うための、基礎的な知識を身につける。	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論	リハビリテーションは障害を有する者を対象とする。医学や医療技術の進歩発展、超高齢化とともに、障害と関わって生活することは誰にでも起こりうる社会となった。本科目では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念ならびに生活機能とその障害の正しい理解を目指す。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。	
		チームアプローチ入門	<p>（概要）包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。医療の現場では、様々な医療専門職が協働するチーム医療が基本となり患者中心の医療を提供している。本科目では、理学療法士、作業療法士、看護師等の専門職の活動や役割を学び、チームアプローチの重要性について理解する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (6 金谷 さとみ/3回) 理学療法士の役割・専門性、チーム医療の実際（理学療法士からの視点、病院）について担当する。 (8 外里 富佐江/5回) チーム医療、患者中心の医療、チーム医療におけるコミュニケーション、作業療法士の役割・専門性、チーム医療の実際（作業療法士からの視点、在宅、地域医療）について担当する。 (29 高橋 由美/2回) 看護師の役割・専門性、チーム医療の実際（看護師からの視点）について担当する。 (6 金谷 さとみ、8 外里 富佐江、29 高橋 由美/5回) (共同) 事例検討（事例提示、グループワーク、発表準備、発表、まとめ）について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	<p>（概要）包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。医療の現場では、様々な医療専門職が協働するチーム医療が基本となり、患者中心の医療の提供を行っている。高度化する医療と多様化する保健医療福祉のニーズに対応できる専門職を目指して、チームとなって連携することの意義と役割を学び、連携協働に必要な実践的な能力を身につける。本科目では、事例を通して多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （8 外里 富佐江/6回）</p> <p>IPW（専門職連携）総論・各論、チームワークの実際（連携する際の工夫を考える）、他職種の専門性を聴く（医療・福祉の現場）について担当する。</p> <p>（14 小関 友記、15 伊藤 大亮、16 須藤 あゆみ、21 荒牧 隼浩、23 熊谷 竜太、24 高橋 慧/6回）（共同）</p> <p>模擬IPW（チーム形成、自己紹介、事例提示、グループワーク、発表準備、発表）について担当する。</p> <p>（29 高橋 由美/1回）</p> <p>他職種の専門性を知る（看護師）について担当する。 （57 高泉 佳苗/1回）</p> <p>他職種の専門性を知る（栄養士）について担当する。 （59 櫻庭 ゆかり/1回）</p> <p>他職種の専門性を知る（言語聴覚士）について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
専門科目	基礎作業療法学	<p>本科目では、医療・保健・福祉領域で広く求められる作業療法について、我が国及び諸外国における作業療法の歴史の変遷や現状を概観しながら、その独自性と専門性について考えていく。また、様々な事例報告に触れる機会を通して、作業療法の知識と技術が臨床現場でどのように発揮されているのかを学ぶとともに、領域別の特色や、領域の枠にとらわれない作業療法の普遍性について理解を深めていく。</p>	
	基礎作業学	<p>本科目では、作業や作業活動を治療的に用いる際に必要となる基礎的な知識を修得する。また、代表的な作業や作業活動の分析的視点及び分析方法について学ぶ。加えて、作業を治療的に用いることができるよう、作業と心理機能、環境因子、個人因子との関係性についても学んでいく。</p>	
	基礎作業学演習Ⅰ	<p>（概要）作業療法士が治療に用いる作業活動を通して、作業の持つ効用や治療的応用について学修する。基礎作業学で学ぶ作業分析についての知識や考え方を意識しながら各種作業活動に取り組み、作業が心身機能や活動にどのような影響を与えるのか理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （11 齋藤 佑樹/2回）</p> <p>作業分析、包括的作業分析、作業分析ワークシートの使用方法について担当する。</p> <p>（16 須藤 あゆみ、23 熊谷 竜太/13回）（共同）</p> <p>折り紙、革細工、エコクラフト、ペーパークラフト、オープン陶芸、七宝焼きについて担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	基礎作業学演習Ⅱ	<p>作業療法士は、対象者の状況に合わせて必要な作業活動や道具の提供を行う。その場合、活動や道具の機能的な側面に加え見た目の美しさや対象者の趣味嗜好を反映したデザインであることが望ましい。本科目では、基礎作業学及び基礎作業学演習Ⅰで学んだ知識を基盤に、デザインに関する基礎理論と基本的方法を理解し、対象者により良い作業活動や道具を提供できる実践力を身につける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	基礎 作業 療法 学	トランスレーショナルセミナーⅠ	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅠでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、作業療法を知ることの重点を置く。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。	共同
		トランスレーショナルセミナーⅡ	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。	共同
		トランスレーショナルセミナーⅢ	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅢでは、様々な疾患を想定した臨床推論を、グループワークを通じて学修し、作業療法への理解を深めることに重点を置く。また、グループワークにおける症例検討を通して、自身とは異なる見解を受け入れ、問題解決のための思考力を身につける。	共同
		トランスレーショナルセミナーⅣ	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅣでは、グループワークや問題解決型学習(PBL: Problem Based Learning)形式での課題遂行を行い、作業療法の各専門領域や最新トピックなどから作業療法に関する様々なテーマを学修し、作業療法に関する見識を深める。また、作業療法士としてのキャリアデザインについてもふれる。	共同
		作業療法研究法Ⅰ	本科目では、代表的な量的研究法、質的研究法、混合研究法について網羅的に紹介しながら、対象の抽出方法、コントロールの設定、バイアスを避けるためのデザイン方法、データの記述方法について学ぶ。加えて、研究論文に記載されている図表の読み方、先行研究の調べ方についても学び、実践につながる基礎を身につける。	
		作業療法研究法Ⅱ	作業療法研究法Ⅰで学修した知識をもとに、作業療法における研究の具体的な方法論について学修する。研究テーマから仮説を立て、研究計画書を作成し、測定や計測、調査を進め、データ収集及び解析を行い、仮説の検証ができるようになる。一連の研究過程で得られた結果から科学的根拠(EBM)に基づいた研究報告や研究発表を通して作業療法における研究の意義を学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	作業療法管理学	本科目では、医療保険制度や介護保険制度についての理解を深める。また、職場のマネジメントやチームワーク、リスクマネジメント、ハラスメント、後進教育に必要な知識・能力を培い職業倫理を高め、所属組織の質を向上させる管理運営や作業療法教育について理解を深めていく。加えて、自己研鑽に役立つ手段についても学ぶ。	
	作業療法評価学	作業療法（Occupational Therapy;OT）にとって評価は重要とされている。対象者の障害や予後予測を踏まえた上で、対象者の生活課題を明らかにするための評価の実践が行えるよう、評価の目的と概要について学ぶ。また、各領域で実施する、医用画像を含む情報収集、面接、観察、効果判定、記録・報告など一連の流れと手法について理解する。	
	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	（概要）対象者の身体機能障害を評価するために必要な基礎的な知識と実践的な技術を学修する。バイタルサインの測定に加え、身体障害作業療法の臨床で広く用いられる、形態計測や関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、筋緊張検査、反射検査等について、評価の意義や目的、方法、記録、結果の解釈について学修、修得する。また、評価手技の実習を通して、対象者が安心・安楽に評価を受けるためのコミュニケーションについても学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （10 酒井 弘美、11 齋藤 佑樹/1回）（共同） 全身確認、バイタル測定：呼吸・血圧・意識障害について担当する。 （17 戸田 祐子、24 高橋 慧/14回）（共同） 形態計測、関節可動域測定、筋力検査、感覚検査、筋緊張検査、深部腱反射、姿勢反射について担当する。	オムニバス方式・共同
	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	（概要）身体障害作業療法評価学演習Ⅰに引き続き、対象者の身体機能障害を評価するために必要な基礎的な知識と実践的な技術を学修する。本科目では、片麻痺機能検査（BRS、上田式、FMA）、上肢機能検査（STEF、MFT）、協調性検査、脳神経検査等に加え、対象者の大切な作業を特定するための面接評価、作業遂行の質を評価するための観察評価について、評価手技の実習を通して、対象者が安心・安楽に評価を受けるためのコミュニケーションについても学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （11 齋藤 佑樹、24 高橋 慧/5回）（共同） 面接評価、観察評価について担当する。 （17 戸田 祐子、24 高橋 慧/10回）（共同） 片麻痺機能検査、上肢機能検査、協調性検査、脳神経検査について担当する。	オムニバス方式・共同
	精神障害作業療法評価学演習	（概要）精神障害領域の作業療法評価で用いる面接・観察・検査の各手法を適切かつ統合的に活用するための知識、技術、態度を学修する。また、各種評価法の実施結果から得られた情報を記述し、その要約を発表することを通し、情報収集から分析、統合に必要な思考力と問題解決能力を高める。 （オムニバス方式/全15回） （9 平山 和美/1回） 精神障害作業療法の評価の全体像について担当する。 （16 須藤 あゆみ、23 熊谷 竜太/14回）（共同） 自己理解、パーソナルスペースの測定・分析、情報収集の種類と概要、面接、生活機能に関する評価、精神機能に関する評価、作業遂行機能、社会生活技能について担当する。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	作業療法評価学	失語、失認、注意障害、半側空間無視、失行、遂行機能障害等の高次脳機能障害を持つ対象者に対する作業療法評価について、演習を通して適切な評価が行えるよう学修する。高次脳機能障害は、自動性・意図性により症状が変化する場合が多いため、評価時の声掛けの方法や観察の視点、解釈の方法等についても実践的な知識と態度を修得する。	共同
	作業療法治療学	本科目では、人を作業的存在として捉える視点を学ぶとともに、作業が人や社会に与える影響を学ぶことで、作業の持つ力を作業療法に活用するための思考を深めていく。また、作業療法における主要な広範囲理論について学ぶことで、人をダイナミックシステムとして捉えるとともに、様々な側面から臨床的推論を行うための俯瞰的な視点を身につける。	
	身体障害作業療法学Ⅰ	（概要）本科目では、作業に焦点を当てた実践について学ぶとともに、脳卒中をはじめ、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症等、作業療法士が担当する主要な身体障害の病態や症状について学ぶ。また、目標設定の方法、予後予測、病期別の支援に加え、諸機能の回復、技能の修得、環境調整など、疾患・障害特性を踏まえた作業療法評価と支援の実践についても網羅的に学んでいく。 （オムニバス方式/全15回） （10 酒井 弘美/9回） 外傷性脳損傷、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症の病態と症状、評価と支援の実践について講義を行う。 （11 齋藤 佑樹/6回） 作業に焦点を当てた実践（作業療法の目的と手段、作業療法評価、支援、効果判定）、脳血管障害の病態と症状、作業療法評価・支援の実践について講義を行う。	オムニバス方式
	身体障害作業療法学Ⅱ	（概要）本科目では、脊髄損傷や大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折等の主要な運動器障害に加え、呼吸器疾患や循環器疾患、代謝性疾患等の内部障害の特性を踏まえ、目標設定の方法、予後予測、急性期・回復期・生活期の支援内容について、必要な知識を学ぶ。また、病期別の支援に加え、諸機能の回復、技能の修得、環境調整など、疾患・障害特性を踏まえた作業療法評価と支援の実践についても網羅的に学んでいく。 （オムニバス方式/全15回） （10 酒井 弘美/10回） 脊髄損傷、呼吸器疾患、循環器疾患、廃用症候群、熱傷、糖尿病、リウマチ、がんの病態、症状、作業療法評価、支援の実践について講義を行う。 （11 齋藤 佑樹/5回） 骨関節疾患、切断、手外科の病態と症状、作業療法評価、支援の実践について講義を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	作業療法治療学		
	身体障害作業療法学演習	<p>（概要）本科目では、身体障害作業療法学Ⅰ・Ⅱで学修した知識を基盤として、身体障害を持つ対象者に対する評価・治療技術（喀痰・吸引を含む）を演習を通して修得することを目的とする。また、演習を通して得られた評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出し、問題点に対して治療プログラムを立案し、実践する。演習への主体的な取り組みにより、作業療法を実践する能力を高めていく。最終的には、作業療法評価や作業療法プログラムを具体的にどのように実践するべきかを検討しながら学修を進める。</p> <p>（オムニバス方式/30回） （11 齋藤 佑樹/11回） 関節可動域の拡大、筋力の維持・増強、感覚・知覚再教育、脳血管障害及び筋萎縮性側索硬化症の事例検討（模擬事例提示、評価計画立案、評価の実施、評価のまとめ、治療計画立案、治療の実施）について担当する。 （17 戸田 祐子/8回） 脊髄損傷及びパーキンソン病の事例検討（模擬事例提示、評価計画立案、評価の実施、評価のまとめ、治療計画立案、治療の実施）について担当する。 （24 高橋 慧/8回） 大腿骨頸部骨折及び関節リウマチの事例検討（模擬事例提示、評価計画立案、評価の実施、評価のまとめ、治療計画立案、治療の実施）について担当する。 （11 齋藤 佑樹、17 戸田 祐子、24 高橋 慧/1回）（共同） 喀痰吸引について演習を行う。 （17 戸田 祐子、24 高橋 慧/2回）（共同） 評価・治療手技の振り返りについて担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	精神障害作業療法学	<p>（概要）本科目では、精神障害領域の主たる対象疾患の臨床像を理解し、各精神疾患における適切な作業療法の評価法や治療、援助内容、実践領域について学修し、各対象疾患における作業療法の役割を理解する。</p> <p>（オムニバス方式/15回） （9 平山 和美/4回） 統合失調症の症状と病型、経過と予後、治療、気分障害の病態生理、経過と予後、パーソナリティ障害の病態、神経症性障害の病態について講義を行う。 （16 須藤 あゆみ/11回） 精神障害に対する作業療法の基礎理論、作業療法の構造と実施形態、統合失調症（認知機能障害と行動特性、作業療法の実際）、気分障害の作業療法の実際、物質依存の病態生理と作業療法の実際、パーソナリティ障害の作業療法の実際、神経症性障害の作業療法の実際、摂食障害の病態と作業療法の実際、てんかんの病態と作業療法の実際、知的障害の病態と作業療法の実際について講義を行う。</p>	オムニバス方式
精神障害作業療法学演習	<p>（概要）本科目では、精神障害作業療法学において学修した評価や治療に関する知識、技術を発展させ、精神疾患・障害に対する作業療法の知識や技術を演習を通して修得することを目的とする。また、事例を通して評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出し、介入案を立案し、実践する。作業療法評価や作業療法プログラムを具体的にどのように実践すべきかをグループワーク等にて検討しながら学修を進める。</p> <p>（オムニバス方式/15回） （9 平山 和美/1回） 集団作業療法の概要について担当する。 （16 須藤 あゆみ/5回） デイケア、訪問作業療法、司法領域の概要と作業療法支援の実際、制度・社会資源の利用について担当する。 （16 須藤 あゆみ、23 熊谷 竜太/9回）（共同） 作業を手段に用いるプログラム（計画、発表、実践、まとめ）、症例を通して学ぶ（病態理解、評価計画、評価、プログラム実施、まとめ）について担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 作業療法治療学	高齢期作業療法学	高齢化に伴い、疾患や障害像が多様化し、作業療法の介入の機会が増えている。本科目では、一般高齢者の特徴を学び、その上で、近年急激に増加している認知症を呈する高齢者について、医学的知識に基づき、認知症と共に生きる高齢者の生活を考え、作業療法士の役割を学修する。	
	高齢期作業療法学演習	（概要）本科目では、高齢期作業療法学において学修した評価や治療に関する知識、技術を発展させ、作業療法の知識や技術を演習を通して修得することを目的とする。また、事例を通して評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出し、介入案を立案し、実践する。作業療法評価や作業療法プログラムを具体的にどのように実践すべきかグループワーク等にて検討しながら学修を進める。 （オムニバス方式/15回） （8 外里 富佐江/3回） 作業療法士が理解しておくべき人権と尊厳、高齢者の生活のみかた、高齢期作業療法の評価～実施、再評価、地域移行の流れについて担当する。 （17 戸田 祐子、24 高橋 慧/12回）（共同） MTDLP（作業の聞き取り、ライフストーリーの把握）、高齢期の対象者がたどる病期の流れ（急性期、回復期）、生活期リハビリテーションの現状と課題、マネジメント、終末期リハビリテーションの在り方、実施場所に応じた治療・援助内容のちがいを、認知症高齢者の作業療法、介護予防の作業療法、介護予防教室の計画について担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
	発達障害作業療法学	脳性麻痺や筋ジストロフィーなどの代表的な小児疾患の病態や障害特性について学ぶ。また、作業療法を行う上で必要な各評価の基本的な実施方法、手順の理論的根拠を学び、的確に実施できる技術を身につける。加えて評価方法だけでなくリスク管理や対象者への接し方、触れ方など、作業療法士として必要な態度・姿勢についても必要性和意味を考え、実践できるよう理解を深める。	
	高次脳機能障害作業療法学	人の認知・行動と脳機能の関係について学ぶとともに、高次脳機能障害の種類や症状の詳細について学び、それぞれの障害が対象者の生活にどのような弊害を及ぼすのかを理解する。また、高次脳機能障害の状態を正確に評価し、作業療法士として行うべき支援が提供できるよう、必要な知識・技術を身につける。	
	日常生活活動学	本科目では、日常生活活動（Activities of Daily Living：ADL）及び手段的日常生活活動（Instrumental Activities of Daily Living：IADL）について、各作業の側面（意味・形態・機能）の理解を深めるとともに、代表的な疾患に対する作業療法支援の実際について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	作業療法治療学	<p>（概要）義肢や装具は、リハビリテーション医療において日常生活や社会復帰を可能とする重要な手段のひとつである。リハビリテーション治療において義肢装具を用いるためには、上肢切断や関節リウマチなどの病態の理解が不可欠であるとともに、疾患の特性に応じた適応を十分に理解することが必要である。本科目では、義肢装具の構造、機能、種類、特徴、その適応、使用方法、義肢や装具の仕組みを学修し、実際の治療や日常生活での障害に応じた義肢装具の選択、使用方法に関する基本的な知識を修得する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (1) 原 和彦/3回 義肢装具学概論、義肢学総論（歴史・切断の原因・部位・分類）、下肢切断の評価・ソケットの種類について講義を行う。 (11) 齋藤 佑樹/8回 上肢切断の評価・ソケットの種類、疾患別適応装具（関節リウマチ、末梢神経損傷、頸髄損傷）、スプリント作成の講義を行う。 (66) 大山 峰生/4回 切断の作業療法（断端の管理、筋力訓練、ADL訓練）、義肢（適応・分類・構造）、義肢（装着・操作訓練・義手のチェックアウト）、装具学総論（歴史・目的・分類）について講義を行う。</p>	オムニバス方式	
		福祉レクリエーション論	<p>作業療法士は、対象者の治療に様々な作業活動を用いる。その中でもレクリエーションは領域を問わず広く活用される作業活動である。本科目では、レクリエーションの理念や必要性、支援者の役割について学ぶとともに、ホスピタリティトレーニングやアイスブレイキング、代表的な障害の特性を踏まえたレクリエーション技術を身につける。</p>	
		先端作業療法	<p>近年、リハビリテーション領域では、再生医療やロボティクス、ICTの活用などの技術的進歩が目覚ましい。また、従来の臨床実践（評価・治療）についても、様々なエビデンスが確立されている。本科目では、幅広い視野を持ち、イノベーションに興味を持つことができるよう、作業療法に関連する最先端の技術やエビデンスについて学び理解を深める。</p>	
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	<p>実習施設において実際の作業療法を見聞、体験することで作業療法に対する認識を高めることを目的とする。体験実習を通して作業療法士になるための自覚を持つとともに、作業療法士の活動見学や作業療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方など作業療法士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>また、臨床現場における作業療法士の役割と位置づけ、他職種との連携など、リハビリテーションチームとは何かを学修する。</p>	共同	
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	<p>医療チームの一員として臨床場面に参加しながら作業療法を経験し、技能を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。実習の前には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。</p>	共同	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	臨床実習	臨床実習Ⅲ（地域実習）	医療・保健・福祉領域で広く求められる作業療法は、作業や環境を改善することを目指しており、人だけでなく地域とも関わることを前提としている。通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにおける実習を通して、現在我が国で推進されている地域包括ケアシステムの中での作業療法士の役割やマネジメント等を学ぶ。また、生活障害の理解と他職種との連携を踏まえた生活課題を明らかにできる作業療法の実践について学修する。	共同
		臨床実習Ⅳ（総合実習）	診療参加型の実習によって作業療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に対して、評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。また、臨床的思考能力向上のために自発的に行動し、作業療法士としての自覚を高める。実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。	共同
		臨床実習Ⅴ（総合実習）	診療参加型の実習によって作業療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の作業療法を提供しながら、臨床現場における作業療法士の役割と責任について理解し、チームの一員として自覚を持って行動できるようになる。実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。	共同
地域作業療法学		地域生活支援論	（概要）地域で作業療法を実践していくため、基礎となる身近な地域について理解を深める。車椅子利用者等の具体的な生活をイメージし、住み慣れた地域で安全に生活するためには何が必要であるのかを検討する。また、出身地域の現在の社会資源について調べ、リハビリテーションサービスが必要な対象者の生活について考える。 （オムニバス方式/全8回） （8 外里 富佐江/1回） 「地域」とは何か、について講義を担当する。 （17 戸田 祐子、24 高橋 慧/7回）（共同） 学生各々の出身地と大学がある仙台市の地域の違い、地域作業療法学における連携と協働、ノーマライゼーション、車椅子の構造・操作・介助方法、社会資源の利用についての講義を担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
		地域作業療法学	（概要）超高齢社会の進行に伴い、リハビリテーションサービスを必要とする対象者が増加している。対象者が住み慣れた地域での生活を継続するために必要な介護保険法や障害者総合支援法など制度の活用も含めた作業療法の支援について学ぶ。 （オムニバス方式/全8回） （8 外里 富佐江/4回） 地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメント、介護保険制度、社会資源、地域保健法、学校保健法、産業保健法、訪問作業療法、通所作業療法、施設における作業療法についての講義を担当する。 （17 戸田 祐子/4回） 地域リハビリテーションの歴史、概念、動向、家族関係の調整、家族への介護指導、地域における生活スタイルの見直しと再構築、疾病の予防等についての講義を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域作業療法学	職業リハビリテーション論Ⅰ	本科目では、職業リハビリテーションの理念や歴史的発展、現在の法制度、社会資源など職業リハビリテーションに携わる上で必要な基本的知識を学修する。職業関連活動の基礎である就労支援制度、職業評価、職業リハビリテーションについての基礎的な理解や、障害者雇用促進法や障害者就労支援に関する作業療法士の役割を理解することで、就労支援のために必要となる作業療法評価から介入までのプロセスを学修する。さらには、各種法制度と社会資源を学修し、就労支援における作業療法実践力を修得することを目的とする。	
	職業リハビリテーション論Ⅱ	（概要）就労はリハビリテーションにおけるゴールの1つであり、人の生活に欠かすことのできない要素でもある。本科目では、職業リハビリテーション論Ⅰで学んだ知識を基盤に、作業療法士をはじめとする関連職種が、身体障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害等を持つ対象者の就労にどのように関わっているのか、その支援の実際について、事例を通して学んでいく。 （オムニバス方式/全8回） （10 酒井 弘美/1回） 障害別就労支援（精神障害・身体機能・知的障害など）についての講義を担当する。 （16 須藤 あゆみ、23 熊谷 竜太、24 高橋 慧/7回）（共同） 地域就労施設（就労移行支援A型・就労移行支援B型・就労継続支援A型・就労継続支援B型）での事例及びそのまとめを担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
	生活環境論	障害者、高齢者が住み慣れた自宅や地域社会において自立した生活を継続することは、対象者のQOL維持・向上の上で重要である。作業療法は、対象者が抱える心身の障害だけでなく、地域や職場・学校環境、住環境を考慮した支援が必要である。本科目では、対象者への適切な支援のため、住環境整備に関する基礎知識を学修する。	
	福祉住環境論	（概要）作業療法士は、対象者の障害の種類や程度、予後予測、対象者個々人の生活環境を踏まえ、個別性の高い環境調整が求められる。本科目では、生活環境論で学んだ知識を基盤に、住環境支援が必要なモデルケースの検討を行いながら、住環境整備の実践力を身につける。 （オムニバス方式/全8回） （11 齋藤 佑樹/3回） 住環境整備の意義、住環境整備の進め方と留意点、OT・PTが理解すべき建築知識と移動用福祉用具について講義を担当する。 （11 齋藤 佑樹・17 戸田 祐子/5回）（共同） 脳血管障害、脊髄損傷、高次脳機能障害、発達障害、高齢期の障害の住環境整備について講義を担当する。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 特別演習	作業療法学総合演習Ⅰ	<p>（概要）本科目は、3年間の学修総括として作業療法及びリハビリテーションに関する知識と技術を整理し、統合的な能力を身につけることを目的とする。総合実習に向けて、これまで学修した基礎医学・臨床医学分野の知識を統合し、また専門領域の知識と技術を定着させるため、グループワークなどを通じて確実なものにする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （8 外里 富佐江/1回） 脳血管系疾患、運動器疾患の作業療法実践について担当する。 （9 平山 和美/5回） 神経系、感覚系の解剖生理学、中枢神経障害と臨床医学、末梢神経・筋の障害と臨床医学、精神障害領域・高齢期障害領域の作業療法実践について担当する。 （10 酒井 弘美/3回） 精神障害・高次脳機能障害の評価、発達障害領域の作業療法実践について担当する。 （11 齋藤 佑樹/4回） 作業と生活のつながり、身体障害・高齢期障害・発達障害の評価、義肢装具の作業療法への適用について担当する。 （12 大和田 宏美/2回） 骨学、筋学、運動系の解剖生理学について担当する。</p>	オムニバス方式
	作業療法学総合演習Ⅱ	<p>（概要）本科目は、作業療法士として必要な知識と技術を整理し、作業療法士としての総合的な能力を高めることを目的とする。基礎医学・臨床医学分野と作業療法学について、リハビリテーション専門職としての観点でさらに理解を深め、作業療法士として現場で活躍しうる能力を身につける。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （8 外里 富佐江/1回） 身体障害・高齢期障害・発達障害の作業療法評価について担当する。 （9 平山 和美/3回） 中枢神経障害、末梢神経・筋の障害と臨床応用、精神障害領域の作業療法実践について担当する。 （10 酒井 弘美/8回） 解剖生理学（骨学・筋学・運動学・神経系・感覚系）、精神障害・高次脳機能障害の作業療法評価、運動器疾患・高齢期障害領域・発達障害領域の作業療法実践について担当する。 （11 齋藤 佑樹/3回） 基礎作業療法学、脳血管系疾患の作業療法実践、義肢装具学について担当する。</p>	オムニバス方式

学校法人北杜学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
				大学新設				
				仙台青葉学院大学				
				看護学部				
				看護学科				
				90	-	360		
				リハビリテーション学部				
				リハビリテーション学科				
				理学療法専攻				
				70	-	280		
				作業療法専攻				
				30	-	120		
				計				
				190	-	760		
仙台青葉学院短期大学				仙台青葉学院短期大学				
看護学科 (3年制)				90	-	270		
ビジネスキャリア学科				155	-	310		
リハビリテーション学科 (3年制)								
理学療法専攻				80	-	240		
作業療法専攻				30	-	90		
こども学科				100	-	200		
歯科衛生学科 (3年制)				70	-	210		
栄養学科				75	-	150		
観光ビジネス学科				50	-	100		
現代英語学科				35	-	70		
言語聴覚学科 (3年制)				40	-	120		
救急救命学科				40	-	80		
計				765	-	1,840		
仙台医療福祉専門学校				仙台医療福祉専門学校				
医療事務総合学科				80	-	160		
医療事務学科				40	-	40		
国際総合ビジネス学科				80	-	160		
社会福祉学科				40	-	80		
介護福祉学科				80	-	160		
計				320	-	600		
仙台大原簿記情報公務員専門学校				仙台大原簿記情報公務員専門学校				
OA事務学科 (2年課程)				20	-	40		
OA事務学科 (1年課程)				10	-	10		
経理事務学科 (2年課程)				30	-	60		
情報システム学科 (3年課程)				5	-	15		
情報システム学科 (2年課程)				20	-	40		
ビジネス学科 (2年課程)				50	-	100		
税理士会計士学科 (4年課程)				5	-	20		
税理士会計士学科 (3年課程)				10	-	30		
税理士会計士学科 (2年4カ月課程)				10	-	30		
税理士会計士学科 (2年課程)				20	-	40		
税理士会計士専攻学科 (1年課程)				5	-	5		
行政公務員学科 (2年課程)				70	-	140		
行政公務員学科 (1年課程)				30	-	30		
法律公務員学科 (2年課程)				40	-	80		

法律公務員学科（1年課程）	40	-	40
総合公務員学科（2年課程）	40	-	80
総合公務員学科（1年課程）	40	-	40
計	445	-	800
仙台工科専門学校			
測量学科	40	-	40
環境土木工学科	40	-	80
大工技能学科	40	-	80
建築デザイン学科	80	-	160
計	200	-	360
仙台デザイン専門学校			
グラフィックデザイン学科	120	-	240
計	120	-	240

法律公務員学科（1年課程）	40	-	40
総合公務員学科（2年課程）	40	-	80
総合公務員学科（1年課程）	40	-	40
計	445	-	800
仙台工科専門学校			
測量学科	40	-	40
環境土木工学科	40	-	80
大工技能学科	40	-	80
建築デザイン学科	80	-	160
計	200	-	360
仙台デザイン専門学校			
グラフィックデザイン学科	120	-	240
計	120	-	240